(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

- I.その人らしい暮らしを支える
 - (1)ケアマネジメント
 - (2)日々の支援
 - (3) 生活環境づくり
 - (4)健康を維持するための支援
- Ⅱ.家族との支え合い
- Ⅲ.地域との支え合い
- IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価! ステップ 外部評価でブラッシュアップ!! ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会										
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号										
訪問調査日	令和5年12月8日										

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	11名	(依頼数)	18名
地域アンケート回答数			5名	

※事業所記入

3873100154						
グループホームこうゆう庵						
ユニットI						
天崎 るみ						
令和 5 年 11 月 1 日						

(別表第1の2)

[事業所理念]	[前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果]	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】
場 「新しい我が家」を提供します ・ 施設が新しい我が家であることを踏まえご利用	* 介護計画の目標やサービスに基づいた記録にまでは至っていない計画を意識したサービスの実施内容が記載出来るよう職員間で検討するなど、日々の支援に繋げられること ①介護計画の目標にナンバーはついていたがサービス内容に数字を入れ記録にナンバーと数字を入れる。 指摘を受けた評価日 (Rs.12.15)のタ方の介護計画の目標やサービス内容に数字をふり、ケース記録に記入していく。以前に行っていた事なので当日より実施、続けている。 * 事業所の運営上の事柄は運営推進会議に記載しているものの、家族の参加が限定されているため、理解が得られていない、家族への周知方法を職員間で検討してほしい ②家族会議が開催されれば詳しく説明する。新規入所の家族(親子)に声掛けして運営推進会議に参加していただく。 R4.4.30 R5.4.2 I開催の家族会議で外部評価・運営推進会議について詳しく説明を行う。家族会議、運営推進会議の結果については、結果を郵送するようにしている。	開設して20年が経過した幹線道路沿いにある事業所は、のどかな田園地帯に立地している。敷地内には、野菜の無人販売所やカフェがあり、地域住民の交流の場として開放をしている。事業所として、利用者の心身機能の維持に努めるとともに、主体性を持って明る(心豊かに過ごしてもらいながら、利用者にとって事業所が新しい我が家となるように、職員が一丸となって、より良い支援に取り組んでいる。また、コロナ禍や感染対策が続き、利用者が家族や地域と関わりを持ちながら暮らしていけるように、運営推進会議のあり方を工夫している。さらに、動画配信の研修を活用して、職員のスキルアップを図ったり、資格取得のサポートをしたり、希望休や有給休暇を取得しやすくするなど、働きやすい職場環境づくりにも取り組んでいる。加えて、管理者と職員との良好な関係も築かれ、利用者の穏やかな生活に繋がるとともに、職員間で検討をしながら、利用者本位のより良い支援に繋げている。

		評	個	五 結 果 表	0	施状況の評価】 くくできている 〇ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない				
項目 No.	評価項目	小項 目	Į.	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.そ	の人らしい暮らしを支える	,								
(1)ク	アマネジメント									
		а		川用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努っている。	0	ご家族様が困って入所される方がほとんどなので、これまでの生活歴や日々での関わりの中で施 設になじんで下さるかどうか?利用者の思いを聞き、意向を把握する様努めている。	0		0	
		b		B握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という 見点で検討している。	0	本人視点が一番と解っているが介護者が困って入所するケースがほとんどなので日々の関わりの 中、ご利用者の表情や言葉から汲み取る様努め、ご家族や関係者にも相談している。				人居前に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、思いや意向を聞くよう努めている。日々
	思いや暮らし方の希望、意向 の把握	c		戦員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)ととも 、「本人の思い」について話し合っている。	Δ	ご家族様から本人の思いは聞いているがコロナ禍で面会も少ない。親戚までは難しいが、その他 の関係者(友人)から情報を得られるよう努めている。			//	の関わりの中で、職員は利用者の思いや意向を把握するよう努めている。また、24時間 シートを活用して日課のほか、意向や好み、自分のできること、サポートが必要なことなど、
		d		本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をている。	0	課題分析表やアセスメントシートを利用し、職員間で共有している。				詳しく情報収集して取りまとめ、定期的に、アセスメントシートの情報を更新している。
		е		戦員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさな いように留意している。	0	ご利用者本人の立場になり考えるように努めているが関係者からの情報にも耳を傾ける。発語の 無い人や幻覚幻聴のある利用者の思いはたくさん話をして思いを見落とさないように留意してい る。				
		а	大過	川用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや 切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経 等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞い いる。	0	入所以前に関わっていたケアマネから詳しい情報をいただき、本人、ご家族様と面接して環境やごれまでの生活を把握し、フェイスシートに記録をし、入所後、知り得た情報も記録を行い、計画に活かしている。			0	入居前に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、生活歴や生活環境などの詳細な情報の 聞き取りをしている。また、これまで関わってきた介護支援専門員や関係機関の担当者から
2	これまでの暮らしや現状の把握	ь	(1	川用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に そめている。	0	本人面接時にご家族様から詳しく聞いて把握に努めているが、日や時間によっても状態が異なる 時もあるため、都度、把握する様努めている。入所時はとりあえず1ヵ月の計画を作成している。			l /	情報収集をしている。また、把握した情報は、フェイスシートやアセスメントシートの中に詳細な記録を残し、職員間で共有をしている。入居後にも、日々の生活の中で、利用者から情報を聞くこともあり、新たに得られた情報はアセスメントシートなどに追記するとともに、日々の
		С	ij.	川用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・ ズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生 5環境・職員のかかわり等)	0	24時間シートに入所1週間を目途に本人の思い、出来ること、必要な介助を詳しく記入してもら い、変化についても記録を行い、それをもとに、1ケ月後の計画を作成している。				より良い支援に繋げている。
2	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみな			B握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを よ人の視点で検討している。	0	24時間シートをもとに、1ヵ月後のカンファレンスでは利用者の状況に応じて何をするべきか本人 の視点に立って考え計画立てるように心がけている。				利用者ごとの担当職員を中心に、日々の暮らしの様子や職員の気づきなどを記録した24時間シートを活用して、情報を把握している。また、事前に聞き取った利用者や家族の意見や
ŭ	らず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	Ь	検把	就計した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の 四握に努めている。	0	カンファレンスの時本人に望みを聞くが「わからん、今のままでいいよ」の返事が多い、職員と話し合い本人らしく暮らせるよう、健康管理を含めて3つの課題に絞り込めるよう今後の課題について検討している。。				希望などを踏まえて、把握した情報をもとに、カンファレンスを開催し、利用者の視点に立って 職員間で検討をしている。
		а	本	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	Δ	コロナ禍の3年間は外出、外食の希望には添えていない。それ以外の思いや意向は本人、ご家族 様と話し合い思いや意向を反映したプランを心がけている。				
4	チームでつくる本人がより良 く暮らすための介護計画		Ü	、人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの見見やアイデアを反映して作成している。	0	状態が落ち着いている人は6ヵ月毎に、コロナに感染した人は状態を見極め、ご家族様や本人の思いを十分聞いてカンファレンスで日々の介護方法を含めまとめ、ブランに反映している。	0		0	24時間シートやモニタリング情報等を活用して、カンファレンスの中で検討を行い、一人ひと りの利用者の課題を明確にして、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、 利用者や家族の意見のほか、関係者の意見やアイデアを反映した計画となるよう努めてい
	、6.3 / ための月 皮川 凹	С	重日	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や 1々の過ごし方ができる内容となっている。	0	重度のご利用者の24時間シートは特に細かく行動を記入してもらい本人がどう過ごしたいか考えながら他のご利用者との関わりが持て、穏やかに暮らせるよう、努めている。				で アンドラ できない あたい はん 、
		d		な人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が ₹り込まれた内容になっている。	Δ	コロナ禍の3年間は受診付き添いと計画の相談をご家族様と行うだけで、地域の人たちとの関りは 難しいが、5類移行後もあまり変わりなし。屋外での面会は出来るようにしている。				

項目 No.	評価項目	小項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の	а	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間 で共有している。	0	定期的なカンファレンスで計画更新者のモニタリングを行い援助項目の変更継続を検討している。 他全員の状態確認を行い支援経過に配入している。			0	24時間シートの作成のほか、定期的なカンファレンスの中で、職員は利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握して理解するとともに、職員間で情報を共有している。また、利用者の個別のファイルには、介護記録と一緒に介護計画が綴じられ、記録の際に、職員は計画を確
	支援	b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったか を個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、 日々の支援につなげている。	0	モニタリングで実践出来たか確認している。長期に渡って出来ない目標の場合は変更をする。毎 日のケア記録に目標やサービス内容に数字をふり、ケース記録に記入している。			0	認できるようになっている。さらに、介護記録には、計画の目標やサービス内容の番号を付けて、計画に沿ったケアの実施状況を分かりやすぐする工夫を行い、職員間で共有し、日々のより良い支援に繋げている。
		а	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	0	定期的に見直しているが、入所直後は1ヵ月、状態の安定している人は6ヵ月、6ヵ月が無理な人 は2~3ヵ月で見直ししている。状態の変化に応じて見直す場合もある。			0	入居後すぐに、暫定の介護計画を作成して、利用者の様子を観察しながら1か月で計画の見
6	現状に即した介護計画の見 直し	b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	0	毎月必ず、計画更新者のカンファレンス、それ以外の人も毎月状態を確認し、支援経過に記入して いる。			0	直しをするとともに、その後は、介護計画の短期目標の期間に応じて、3~6か月に1回計画 の見直しをしている。また、新たな要望や変化が見られない場合にも、毎月利用者の現状確 認を行い、記録に残すことができている。さらに、利用者の心身の状態に大きな変化が生じ
		С	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時 本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した 新たな計画を作成している。	0	入退院や状況に変化が生じた場合は、アセスメント計画を新しくしている。歩行出来ていた人が車 椅子生活になった時は変更申請を行うようにしたり、現状に応じたブランを作成している。			0	た場合には、状況に応じて関係者で話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。
		а	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、 あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催してい る。	0	月1回のカンファレンスで状態確認を行っている。緊急案件は各ユニットの職員を召集して話し合 いを行っている。			0	月1回、ユニットごとに時間をずらしてカンファレンスを開催し、運営上の課題を職員間で検討するとともに、全ての利用者の現状を確認している。緊急案件のある場合には、その日の出
7	チームケアのための会議	b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話 し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫 している。	0	各ユニット別々でカンファレンスを行うので活発な意見交換ができ、新規職員も意見を言い合える 雰囲気となっている。。				動職員で話し合いをしている。また、カンファレンスの開催に合わせて、勉強会を実施する場合もあり、ユニット合同でタカの時間帯に開催をしている。さらに、カンファレンスには、全ての職員が参加できるように、事前に日程調整をしている。加えて、会議に参加できなかった職員には、作成した会議録を確認してもらうとともに、重要事項は、管理者から口頭でも伝達
		С	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が 参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加で きない職員にも内容を正確に共有している。	0	毎月1回ほとんどの職員が参加でカンファレンスを行っている。参加できない職員は、カンファレンスノート(会議録)を見て確認してもらっている。管理者からも伝えている。			0	をしている。
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員 に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・ 家族とのやり取り・業務連絡等)	0	毎日業務を始める前に業務日誌に目を通し、朝夕の申し送りで勤務に入った職員は口頭で伝達を受ける。ご家族様からの伝達も日誌に記入し情報の共有を図っている。申し送りノートに目を通し、 サインをするので全員に伝わっている。	©		0	業務日誌や生活記録、申し送りノートを活用して、日々の朝夕の申し送りを口頭で実施し、情報伝達をしている。また、職員が業務に入る前に、業務日誌等に目を通して確認し、確認後にサインを残すなど、確実な情報伝達に努めている。
(2)	 マの支援			<u> </u>			<u>/</u>		
<u>,_,</u>		а	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶え る努力を行っている。	0	今日は何をしたいのかを伺ったり、好んでされるものを薦めたりしている.		1/		
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	0	入浴後の衣類を自分で選んで頂いたり、水分補給で何が飲みたいかなど自分で考え選択できる 機会や意志を伺う場を作っている。			0	日々の暮らしの様々な場面で、職員は一人ひとりの利用者の意向に沿った支援を心がけ、
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	С	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの ベースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、 食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	0	大まかなタイムスケジュールは決まっているが、その中で長湯が好きだったり就婆時間や起床時間が遅かったり早かったりと1人1人違うので、その人その人に合わせた生活を送っていただくよう 支援している。				利用者が自己決定できるように声をかけて、選択してもらえるように工夫をしている。訪問調査日には、柿の皮をむきながら、「包丁の切れが悪いなあ」などと会話を行い、丁寧に干し柿づくりをする利用者の様子を見ることができた。また、元音楽教師の利用者が、鍵盤を弾いた演奏に対して他の利用者が拍手をしたり、ジグソーパズルをしたりするなど、利用者が好きな
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等) を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	0	昔の話や好きな物の話をしている時は、皆さんとても良い表情をしています。楽しく過ごせるよう声かけを大切にしている。			0	ことや得意なことをしながら、楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		е	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合で も、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の 意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	0	表情や反応を見逃すことなく観察し、「わからない」とあきらめるのでなく、推測や試行錯誤しながら、その人らしい生活を送れるよう努めている。				
	一人ひとりの誇りやプライバ	а	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやブ ライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意 識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声か けをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉がけや対応等)	0	人生の大先輩であることを忘れず、敬いの心を持って言葉遣いや声かけの方法に気を付けている。	0	0	0	は上市垃圾の市で、上佐の賃貸かじた帯でした! 一 除昌け利田老夫」 ナのケ非し物に、 ゴ
10	シーを尊重した関わり	b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー 等に配慮しながら介助を行っている。	0	いくつになっても人前で裸になったり、排泄することは恥ずかしいことだということを頭に入れ、なる べく他の方には見えないように、さりげなく声かけ介助を行っている。	\angle		\angle	法人内研修の中で、人権や尊厳などを学ぶとともに、職員は利用者を人生の先輩と敬い、プライパシーにも配慮して意識した支援が行われている。日頃から、管理者は職員の適切な言動が行われるように、指導や注意喚起をしている。さらに、居室をプライバシーのある空間と
		С	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	0	洗濯物をしまう時や清掃などのちょっとした時でも居室はブライベートの空間であるため、入るときは声かけしてから入らせてもらうようにしている。			0	認識し、中には、利用者の希望で扉を開放している居室もあるが、入室の際に、職員は必ず 利用者に声をかけ、了承を得てから入室をしている。
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止 等について理解し、遵守している。	0	職員間での情報共有や交換は職場内のみで行い仕事外では話さないように徹底している。				

項目 No. 評価項目	小項目	Į	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
	а	助	戦員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に カけてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関 係性を築いている。	0	洗濯物を畳むのは利用者の方が上手だったりします。何かしていただいたら「ありがとう」と言い、 また、利用者も「ありがとう」とお礼を返してくださいます。				
	b		戦員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしてい ことの大切さを理解している。	0	ご利用者が困っている時「ちょっと職員さん」と他の方が呼んで下さることがあります。一緒に暮らしている仲間として心配したり笑いあったりすることで安心して暮らしていけると思っています。				・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
11 ともに過ごし、支え合う関係	С	し 支 す	戦員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立 たりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮を する、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の 41用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	0	トラブルにならないよう席の配置をしたり、ご利用者の性格や関係性を把握し、仲の良い方同士が 一緒に過ごせるようにしている。			0	いように配慮をしている。また、利用者が孤立しないように、職員は声をかけ、寄り添うなどの対応をしている。さらに、仲の良い利用者同士が一緒に過ごせる場や機会の提供にも努めている。
	d	多.	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に そめ、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないよう こしている。	0	トラブルが起きないようにしているが、それが生じた場合は職員が仲介役をし早期解決に努めている。				
	а	こ間	れまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人 間関係や馴染みの場所などについて把握している。	Δ	ご家族様やキーパーソンについては把握できているが友人については把握出来ていないことが多い。		1/		
12 馴染みの人や場との関係組 続の支援	b	いて	の人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会 いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これま で大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援し にいる。		コロナ禍の影響もあり、ご家族様や親戚の方は面会できているが、知人や友人などには気軽にお 会いできていない。				
13 日常的な外出支援	а	沿者定	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に 合って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の 都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固 を化していない) ※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)		お花見ドライブや、近隣の花畑まで散歩に出かけたりしているが、コロナ禍の関係で希望に沿った お出かけはできていない。施設敷地内のカフェには希望で行くことはできる。	0	×	0	コロナ禍や感染対策が続き、外出制限が設けられ、徐々に緩和されてきているものの、地域 の感染状況から、以前のような外出支援までは行えていない。日頃から、天気のいい日に は、事業所周辺を散歩したり、中庭に出て外気浴をしたり、敷地内にあるカフェで食事をする
15 日南町水川山大阪	b		家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も 得ながら、外出支援をすすめている。		新型コロナウイルス感染症の関係で外出はできてはいないが敷地内へのカフェへ行くことができる。				など、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、ドライブをして、季節の花を見に行くなど、気晴らしができるような支援にも取り組んでいる。さらに、外出時には、車いすの利用者も一緒に、出かけることができている。
	а	-	機員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、 -人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因を トもとき、取り除くケアを行っている。		研修や勉強会で認知症やBPSDについて学び、何かいつもと違うと感じたり症状が出たときは職員間で話し合い、ご利用者が安心して暮らせるよう支援している。				・ ・事業所では、一人ひとりの利用者の「できること、できそうなこと」を把握し、着替えや食事な
14 心身機能の維持、向上を図 る取り組み	b	覚の	忍知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感 覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能 D低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上 が図れるよう取り組んでいる。		レクや口腔体操、生活リハビリなど日常生活の中に折り込み楽しみながらADLの維持向上を意識 して取り組んでいる。				ど、できることは時間がかっても自分でしてもらい、職員は見守リや一緒に行うなど、少しでも 心身機能の維持や向上を図るような支援に努めている。また、入浴時の着替えの準備等の 際に、職員は一つひとつをゆっくりと利用者に声をかけながら、準備してもらうこともある。さら に、洗濯物干しやたたみ、入浴時の洗身や更衣など、介護計画の中に取り入れ、日常生活
	С	桓	別用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を 変力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づく)、環境づくり等)	0	一人一人の残存能力を見極め時間をかけても出来ることはお願いしたり、出来るところまで一緒に したりとそれぞれの能力が発揮できるよう支援をしている。	©		0	の中で、できることを継続してもらい、維持ができるように取り組んでいる。
15 役割、楽しみごと、気晴らして	a D	え	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏ま にて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握し こいる。		日々の会話や生活の中から何が好きなのか何ができるのかを把握し、お手伝いやレクで活躍して もらっている。				が 洗濯物干しやたたみ、食器洗い、お盆拭きなど、職員は利用者に声をかけ、できることや得 意な役割、出番を担ってもらえるよう支援している。また、手伝ってもらった後に、職員は「あり
支援	b	E	忍知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある 日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとり D楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。		バズルが好きだったり「仕事はないか?」とお手伝いを役割と考えている方もいます。1人1人の能 カや好みに応じて役割や出番を作るようにしている。	0	0	0	がとうございました」などの感謝の言葉を伝えている。中には、仏壇や位牌を居室内に持ち込んでいる利用者もおり、毎日拝むなどの日課を大切にした支援も行われている。

項目 No. 評価項目	小項目		内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
	а		身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人ら い身だしなみやおしゃれについて把握している。	0	髪を短くするのを好まれず、ヘアピンでとめて整える事を選択される方もいれば短い髪形を好まれる方もいる。その他、色の好みお気に入りの服などを職員は情報を共有している。				
	b		利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や 吸装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援してい 5。	0	同じ服ばかりを着用したがる方には、他の服も薦めたうえで本人の意見を尊重する。気に入った服 はいつでも手に取れるようわかりやすいところに入れておく。				
	С		自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアド バイスする等本人の気持ちにそって支援している。	0	可能であればご家族にその季節にあった本人の好みに合う衣類を必要量用意していただき職員 が気候などにふさわしいものを準備し本人に見ていただき着替えを準備する。				起床時に、職員は利用者に声をかけ、着替えや身だしなみを整えてもらい、見守りやできない部分のサポートをしている。また、利用者のプライバシーを配慮し、整容や身だしなみの乱 れが見られた場合には、さりげなくフォローを行い、訪問調査日には、違和感のある服装や
16 身だしなみやおしゃれの支援	d		ト出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装 楽しめるよう支援している。	0	外出時等で着替える際クローゼット、箪笥までご一緒して好みの服を選んで頂く、気候などにふさ わしくない物を選択されたときのみアドバイスする。				整容の乱れなどは見られなかった。さらに、食べこぼしなどの服装の汚れが見られた場合には、さりげなく居室に誘導し、着替えてもらうなどの対応をしている。加えて、ベッドでの臥床
	е		を容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしてさりげなくカ 、一している。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	0	飲食時、手拭きタオル、ティッシュなどを手近に準備し、素早く汚れをふけるよう対応する。着替え が必要なほど汚れた場合、折を見て居室に誘導し着替えていただく。	0	0	0	時間が長い利用者にも、食事の際に、更衣してリビングに出て食事を摂ってもらうなど、パジャマのままで、1日中過ごすことのないようなメリハリのある支援も行われている。
	f	珇	里容·美容は本人の望む店に行けるように努めている。		コロナ感染症以来は外の美容院には行けないが美容師に出張していただき施設内の美容室で希望する髪型にカットしていただだいている。				
	g		重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てるエ もや支援を行っている。	0	本人の状態に合わせて過ごしやすさ、着心地、着脱のしやすさを重視しながら、その上で似合う髪型、服装を選択させていただいている。				
	а	暗る	議員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解してい 。	0	ご利用者にとって、食事は大きな楽しみのひとつで、味だけではなく見た目や栄養を工夫して、季 節の食材を取り入れている。				
	b		買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者ともに行っている。	0	食材の下ごしらえ、食卓の準備、食事に使用するお盆を拭くなど各ご利用者が出来る事を見つけ 参加してもらっている。			0	
	С		利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を ううことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげてい ら。	0	各ご利用者が出来る事を見つけ、担当を決めて毎日その仕事を行ってもらい施設内での自分の 役割を見つけてもらい自信につなげていただけるようにしている。				
	d e	和有	川用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの 有無などについて把握している。	0	アレルギーや苦手な食べ物は入所時に把握、確認し好みを本人から良く聞き取り行事食やおやつなどに取り入れている。				
		+	成立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレル デー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用 省にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	0	ご利用者の好きな食べ物、食べたい物をお聞きし、行事食の際には、昔どうしていたかを聞き、参 考にしながら旬の食材を取り入れて献立を立てたり季節感のある食事を提供している。			0	が少ない場合には、事業所で用意した食材を加えて提供することもある。また、行事などの
	f	o,	川用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等 健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付 りの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しな 、、いろどりや器の工夫等)	0	ミキサー食は提供していません。各ご利用者の体調に合わせ主食をおかゆにしたり、おかずを小さく切った後で形を整え見た目よく盛り付けるようにしている。				一際に、利用者の好みのメニューを聞き、職員が調理することもある。以前は、利用者と一緒に 買い物に出かけていたが、感染対策で現在は、職員のみで買い物に出かけている。利用者 の嫌いな食材やアレルギーの有無などは、業者に伝えられ、業者から代替えの食材が届け られている。下膳やテーブル拭き、食器洗いなどを利用者に手伝ってもらうとともに、行事食
食事を楽しむことのできる支援	g		を碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使 用している。	0	署の利用が難しい方にはスプーンやフォークを用意したり、力の弱い方には取手の付いた軽い コップで飲み物を提供したりして自分の力で食事を摂りやすいように食器を選んでいる。自分の箸 を用意できる人はしてもらっている。			0	一の巻き寿しなど、利用者に作ってもらうこともある。以前は、茶碗や湯飲み、箸などの食器類は、利用者の使い慣れたものを持参してもらっていたが、現在は、利用者の状況に合わせーて、事業所で用意した物を使う利用者が多くなっている。食事の際に、以前は職員は利用者
	h	J	購員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一 、ひとりの様子を見守り、食事のベースや食べ方の混乱、食 によしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	0	コロナ感染症以来、共に食卓を囲むことはなくなったがご利用者の食事を職員が交代で見守り付き添いサポートをする。その時必ずマスク等着用している。		1/		と一緒の食卓を囲み、同じ食事を摂ることができていたが、感染対策等で保健所の指導もあ
	i	和	直度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して 川用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくり か調理に配慮している。	0	食事前に声がけを行い、職員がエプロンをし、全介助の利用者に対してもどんな料理かを説明し ロに入れる際にも必ずもう一度、声かけを行い食べていただいている。	0		0	グに出てきてもらい、オープンキッチンでの調理の様子や匂いを感じることができている。昼食と夕食は、配食業者の管理栄養士が旬の食材を取り入れて、栄養バランスの取れた献立を作成するとともに、管理者は、朝食の献立を配食業者に伝えるなど、1日を通してバランス
	j	/	川用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養 パランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるよう こしている。	0	少食のご利用者でもバランスよく食べて頂けるように、主食とおかずの量を考え完食していただけ るようにしている。				の取れた食事を提供できるように配慮されている。
	k	事	を事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食 事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄 長や脱水にならないよう取り組んでいる。	0	全体的に食事量が減り体重が減ってきているご利用者にはエンシュアなどを足して栄養を補う水 分量はおやつにゼリーや果物を出したり好みの飲み物を摂っていただく。				
	ı	合	戦員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し 合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養 ヒのアドバイスを受けている。	0	当施設には栄養士がいない為に栄養パランスの良い食事を配食業者に提供していただいている。朝食など施設内で調理する場合もパランスを考え全職員で吟味しメニューを決めている。			0	
	m		を中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を 日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めてい 5。	0	手洗い手指消毒を心がけ食材にじかに触る際はポリエチレン手袋をつけて触る。生ものは出さず 必ず加熱している。				/

項目 評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
	а	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っ ており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	0	職員が研修、勉強会等に参加し、カンファレンスなどで発表し情報を共有し口腔ケアの必要性、重 要性を理解し、利用者の口腔ケアを行っている。				
	b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の 状態、舌の状態等)について把握している。	0	口腔ケア時、自身で行えるご利用者の場合でも外した義歯の状態や口腔内の状態をチェックし磨 き残しがあればもう一度磨いていただくか職員が仕上げ磨きしている。			0	毎食後に、職員は利用者に声をかけ、リビングにある洗面台で口腔ケアを実施している。自
18 口腔内の清潔保持	С	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について 学び、日常の支援に活かしている。	0	歯科治療を受けた後などに口腔ケアについて歯科医師のアドバイスを聞き日々の口腔ケアに役立てている。				分で歯磨きができる利用者にも、職員が磨き残しがないように確認し、全ての利用者の口腔 内の状態を確認することができている。また、義歯のある利用者にも、職員は声をかけなが ら、利用者自身に洗浄をしてもらい、できない部分のサポートをしている。中には、うがいがで
	d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	0	毎食後、義歯を外し、きれいに洗うように声かけをし、必要であれば職員がきれいに洗う。夜間は 入歯洗浄剤につけて消毒を行う。		1/		きない利用者もおり、ガーゼなどの口腔ケア用品を使用して、残渣を取り除くように支援をするなどの清潔保持にも努めている。
	е	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じな いよう、口腔の清潔を日常的に支援している。歯磨き・入れ 歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医 の受診等)	0	声がけ見守りの上で萎歯の洗浄、歯ブラシを慢しく歯に当て磨くように説明しうがいをしていただき 出来ない方は職員が行う。その時、口腔内の異常をチェックする。毎日口腔内を観察し、本人の訴えや、異常があれば歯科医の受診に連れ行っている。			0	
	а	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能 を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含 む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解し ている。	0	可能な限り排泄の自立を目標とし布パンツを使用できるよう支援をする。やむを得ず紙パンツ等を 使用する場合も布パンツと同様毎回トイレで排泄出来るよう支援する。				
	b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	0	便秘の要因となる食事量や内容、水分量を考えた上で便秘が解消しない場合通じ薬等、便秘薬を 医師に処方していただき、排便コントロールしている。				
	С	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	0	排泄チェック表を使用し、ご利用者の排泄のサイクルを把握し、便秘薬の増減をしたり医師に相談 したりして健康状態をチェックしている。				
	d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、 一人ひとりのその時々の状態にあった支援を行っている。	0	紙パンツ、パットはあくまでも補助的なものとし排泄チェック表を参考にし定期的にトイレ誘導を行っている。	0		0	事業所では、基本的に利用者がトイレで排泄できるように支援に取り組み、排泄チェック表を 活用して、一人ひとりの利用者の排泄パターンを把握し、職員は声かけやトイレ誘導などの
19 排泄の自立支援	е	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる 点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行ってい る。	0	排泄困難なご利用者には、排泄をしやすくする姿勢をとるようにアドバイスしたり腹部マッサージな どをしてサポートしている。				を持たして、人のとうのが相合の探心パラーンを心理して、戦員はよかが、いうしいのでは、 支援をしている。また、トイレで排泄できる利用者には、夜間にもトイレニに誘導して、排泄介助 を行い、現在、夜間に居室でボータブルトイレを使用している利用者はいない。さらに、職員 の早めの声かけや誘導をすることで、夜間のみパッドを使用している利用者も多く、昼夜とも
	f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早 めの声かけや誘導を行っている。	0	排泄チェック表をもとに、早めに声をかけ、トイレ誘導を行っている。				に紙おむつで過ごす利用者はほとんどいない。加えて、利用者の排泄状況に応じて、パッド や紙パンツなどの排泄用品を使用する場合には、職員間で必要性を十分に検討し、家族に 了承を得た上で使用をしている。
	g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	0	ご自身で判断ができ、自分で使用出来る方は、使い慣れた物か、それに準ずるものを使用していただき、判断が難しい方は、ご家族様と相談してより良いものを使用する。				
	h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	0	ご本人の健康状態によって布パンツを使えるか、紙パンツ使用かパット使用かを、朝の申し送り時などで確認し、その日その日で決定している。				
	i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて 便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼ら ない取り組み)	0	水分量が足りなくて便秘になりやすい方には水分を積極的に摂取する様に声掛けし、好みの飲み 物を薦めることによって少しでも水分を摂取しやすい様にしている。				
	а	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人 ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時 間帯、長さ、回数、温度等)。		本人のタイミングで入浴出来るように無理強いは行っていない。週に2回~3回を目安に行っている。 毎日の入浴希望があれば入浴を実施している。	0		0	
	b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	0	浴槽をまたぐのに不安がある方でも一旦座ることで姿勢を安定させながら湯に浸かってもらい滑り 止めマットを使用している。				週2~3回、利用者は入浴することができる。季節や気温により、入浴できる時間帯を変更す
20 入浴を楽しむことができる支援	С	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援してい る。	0	本人が洗えるところは洗ってもらっている。一部介助にて入浴している。				ることはあるが、利用者の希望に応じて、湯の温度や湯船に浸かる長さなど、柔軟に対応をしている。また、毎日の入浴希望が出された場合には、対応することも可能となっている。中には、3 次を ちいろ サスチャン しゅつせん こう
	d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、 無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	0	様々な理由で入浴を拒否される事がある。入浴に誘ってみて拒否された場合一旦入浴に関する ワードを遠ざける。再度の声かけでほぐれたところで「入ってみませんか?」と誘う。				には、入浴を拒む利用者もおり、時間帯や職員を変えて声かけをするなどの対応を行い、気持ち良く入浴してもらうことができている。
	е	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極 めるとともに、入浴後の状態も確認している。	0	パイタル測定を行い入浴の可否を見極める。入浴後の状態は確認できている。				

項目 No. 評価項目	小	項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
	á	a 7	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	0	一人一人の睡眠状態を詳しく理解しながら睡眠衛生の向上に努めている。		7	/	
	ı	b !	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来の リズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り 組みを行っている。	0	日中や就寝の行動習慣を変えたり、寝室の環境を整えたりするなど、日常の自助努力による睡眠 向上を試みる。				事業所では、極力眠剤に頼らず、夜間に利用者が自然な睡眠が得られるよう支援している。 中には、夜間に眠りにくい利用者もおり、温かい飲み物を提供したり、職員と話して過ごしたり するなど、眠たくなる時間を見計らい、居室に誘導するなどの対応をしている。また、日中に
21 安眠や休息の支援		c i	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内 容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を 行っている。	0	個々の生活習慣や現在の状態を把握し安心して生活できるよう支援している。		/	0	を力起きて過ごしてもらい、外気浴を取り入れたり、日中の活動量を増やしたりするなどの工 夫をしているが、不眠が続く場合には、利用者の健康面を考えて、主治医に相談し、服薬に 繋がることもある。
	(休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組 んでいる。	0	日中部屋で昼寝が出来るよう声かけを行っている。				
	á	a $\frac{1}{7}$	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	0	ご家族様に電話をかけたい時には意向に沿っている。				
	ı	b 1	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、 促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	0	携帯電話などの使用はご家族に相談の上、許可しているので自由にかけられる。				
22 電話や手紙の支援		c s	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	0	こ家族様の方への電話連絡等は本人の希望に応じていつでも電話できるよう支援している。				
	(届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫 している。	0	ご家族様がら手紙やハガキが届くとお礼の電話などの支援を職員側から声かけをするようにして いる。				
	•	e i	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をして もらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いし ている。	0	個々のご家族様に協力して頂けている。 本人が喜んでいたことは必ず伝えている。				
	í		職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを 理解している。	0	お金の大切さは知っている。お金を持っていないと落ち着かないご利用者は少額持っていただい ている。				
	ı	b l	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買 い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	1km離れたところにコンビニがあるだけで日用品の買い物等それ以上に遠いため行けていない。				
23 お金の所持や使うことの3	を援	. 1	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的 に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの 希望やカに応じて、お金を所持したり使えるように支援してい る。	Δ	コロナ禍で、出かけることもなく使うこともあまりないが、少額のお金を所持できるようにしている。				
	(d å	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合って いる。	Δ	お金を持っている利用者はいないので預り金で職員が必要なものを購入している。				
	•	e 🖁	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や 家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家 族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	0	入所時、「預り金規程」について説明を行い、規程に基づき、日用品や医療費等、の支払いについては、預り金を使用し、毎月預り金の報告状況をご家族様に報告している。				
24 多様なニーズに応える取	り組み	4	本人や家族の状況、その時々のニーズに対応して、既存の サービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に 取り組んでいる。	0	医療機関の受診の際には、ご家族様の都合が付かない時は管理者、ケアマネ、介護職員が受診 に付き添うなど、その時々に応じて柔軟に対応できるよう努めている。	0		0	コロナ禍や感染対策が続き、外出や面会などの制限が設けられていたが、対策の緩和に伴い、可能な範囲で、柔軟な対応ができるようになってきている。家族には、病院の同行支援をお願いしているが、都合の悪い場合に職員が同行したり、日常の詳細な情報を伝える必要がある場合にも、職員が家族と一緒に受診に同行し、様子を伝えたりするなどの対応をしている。
(3)生活環境づくり		_							
25 気軽に入れる玄関まわり	等の配り	慮	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出 入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	Δ	屋外でマスクを着用し、2名まで15分程度で面会をしていただいている。コロナ禍から、地域の人 の面会は出来ていない。	0	0	0	建物の入り口には、たこ焼きやトマトの旗が立てられているほか、敷地内には、野菜などの無人販売所が設置され、地域住民が気軽に立ち寄れるような雰囲気が感じられる。広い駐車場は開放的で、玄関前のスペースは広く、中庭に向かってペンチが置かれ、家族との面会や外気浴に利用されている。
23 双腔に入れる幺関まわり	寺の間	應	入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	Δ		0	(O)	(O)	車場は開放的で、玄関前のスペースは広く、中庭に

評価項目	小項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
	а	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾 お家庭的で、住主いとしてのか地良さがある。(天井や壁に子 供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない 殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えに なっていないか等。)	0	季節に応じて玄関先やフロアの模様替えを行い、又清潔感を心がけ季節に応じた湿度温度の調整を行い居心地よくしている。コロナ対策の為定期的な換気を行っている。	0	0	0	季節に応じて、玄関やリビングの飾り付けを変更し、利用者や来訪者に、季節が感じられる
居心地の良い共用空間づくり	b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除 も行き届いている。	0	毎日換気や掃除などを行い、臭いのない環境を心がけている。			0	「学助に応して、玄関ペクレングの動かけけで変更し、利用有ペイあり有に、学助が感じられる」 ように工夫をしている。訪問調査日には、利用者と一緒に作成したクリスマスの飾り付けが行 」われ、赤や緑のクリスマスカラーが華やかな雰囲気を醸し出していた。また、共用空間の掃
	С	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	0	季節によって飾りつけをしている。掲示板にはご利用者の作品や季節感のあるものを提示している。雑誌等利用者が読めるように置いている			0	除や換気に気を配り、加湿器を配置するなど、清潔で快適な空間となっている。さらに、事業 所前には、利用者が皮をむいた干し柿が吊されていた。
	d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	0	数人用のソファーを置いて、気の合うご利用者が会話出来るようにしている。一人になりたいとき は居室に戻られ過ごすことができるよう配慮している。				
居心地良く過ごせる居室の配成	慮	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもの を活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る。	0	馴染みの自宅で使い慣れた家電・装飾品・大切な品は持ってきていただきご家族の写真や趣味の 作品を居室に飾り、その方の過ごしやすい日々を送っていただいている。	0		0	居室には、ベッドや洗面台、エアコン、クローゼットが設置されている。利用者は、自宅から馴染みの物を持ち込むことができ、家具や家族の写真を飾るなど、居心地良く過ごせるようエ夫をしている。中には、仏壇や位牌を持ち込んで毎日拝んだり、電気のひもを伸ばして、点灯や消灯したりしやすいようにしている利用者もいる。
一人ひとりの力が活かせる環		建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」 を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した 生活が送れるように配慮や工夫をしている。	0	居室前は一人一人の氏名ブレートを貼りご利用者が混乱しないようにしている。トイレや浴室もわかりやすいように表示している。	/		0	建物内はパリアフリー構造で、動線上に手すりが設置されている。また、広いフロアの中央に 部分にテーブルが置かれ、車いすや歩行器を使用する利用者にも動きやすい環境となって いる。さらに、各居室の入り口の扉には、氏名と誕生月の花の写真を貼られ、利用者が認識 しやすく、間違わないように工夫をしている。各ユニットに3か所のトイレがあり、分かりやすく
95 3 5 7	b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手 に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほう き、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、 ボット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	0	カウンターには季節の花を活けたり居室には季節の貼り絵や利用者様が塗ってくださった塗り絵を 飾っている。好みの本をいつでも読めるように置いている。				表示をしている。加えて、テーブル席のほとんどが、居室の前に設置され、利用者が安心安 全に移動できるよう配慮されている。
鍵をかけないケアの取り組み	а	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害、鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらずの理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している、(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	0		Δ	0	0	全ての職員は、玄関等に鍵をかけることの弊害を理解している。日中に玄関は施錠をしておらず、夜間のみ防犯のために施錠をしている。また、玄関スペースとフロアの間に扉はなく、利用者は自由に出入りや行き来できるようになっている。また、玄関に赤弁線センサーを設置され、利用者や来訪者の出入りを職員は気づきやすくなっているが、時には、センサーの電源が抜けていることがあり、管理者は職員に注意喚起をしている。さらに、外に出たい利用
	b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	0	帰宅願望の強い人が勝手に出ていくこともあるが、見守り強化で鍵はかけていないご家族様にも 説明し、納得していただいている。				者には職員が付き添って屋外に出るなどの対応をしている。加えて、近隣住民に依頼し、利用者が一人で外を歩いている場合には、事業所に連絡をもらえる体制づくりをしている。コロナ禍や感染対策が続いていたこともあり、家族に鍵をかけないケアの取り組みに対して、理解促進が図られることも期待される。
康を維持するための支援								
	а	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等につい て把握している。	0	生活歴やアセスメントは入居時に行いカルテに綴じておりいつでも確認できるようにしている。				
日々の健康状態や病状の把 握		職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサイン を早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを 記録に残している。	0	普段と違った様子やバイタル測定結果の時は生活記録(カルテ)に残している。職員に引継ぎを 行っている。	/			
	С	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気 軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につ なげる等の努力をしている。	0	ご利用者の体調に何か変化がある場合は小松医院が連携病院の為相談できる関係を築いている。日中は看護師に相談している				
		利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族 が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	0	基本的にはかかりつけの医療機関で引き継ぎ、診察や処方を受けていただく。ご利用者、ご家族 様が希望する場合には協力医療機関の医師に相談し、受診又は往診していただいている。	0			
かかりつけ医等の受診支援	b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつ け医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられる ように支援している。	0	受診が必要な場合はご家族様に連絡、受診していただく。無理な場合は管理者やケアマネが付き 添い受診する。往診医にも、往診を依頼したりもする。				
	С	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や 共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意 を得られる話し合いを行っている。	0	受診や検査が必要と判断した場合、ご家族様に連絡して検討していただく。結果報告を受け、話し合いをして、情報を共有している。				
	居心地の良い共用空間づくり 居心地良く過ごせる居室の配 一人ひとりの力が活かせる環境づくり 鍵をかけないケアの取り組み 康を維持するための支援 日々の健康状態や病状の把	####################################	計画項目 日	# 計画項目 目 共用の空間(玄関、瀬下、尾間、合所、食堂、浴室、トイレ等) は、変質的な雰囲気を有しており、測度や設備、物品や結婚も実質的で、毛生いとしてのいめ良さかある。(天井や壁に子) 化高川の館りつけを生いしてり、過度なものしか置いていないか等。	####################################	###	###	###

項目 No.	評価項目	小項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
00	人退院時の医療機関との連	а	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人 に関する情報提供を行っている。	0	教急搬送の際はケアマネと管理者の付き添いで入院、医療連携シートを当日中か、翌日の午前 中に医療機関の相談員に届けている。介護保険証、アセスメントシートも添付している。				
32	隽、協働	b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	0	医療連携室の担当相談員に定期的に連絡取り、状態や退院の目途をお聞きしている。				
		а	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内 の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の 配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かか りつけ医や協力医療機関等に相談している。	0	管理者に伝え相談している。その意見を参考にし、協力医療機関に連絡し、指示を仰いでいる。				
33	言護職との連携、協働	b	看護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	0	管理者は24時間相談できる体制にあり、医療機関は昼間のみの対応となっていたが、コロナウイルス感染症が流行し始め、夜間も協力医療機関に連絡取れる体制を確保している。				
		С	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切に できるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療 につなげている。	0	毎朝、バイタルチェックをして健康管理している。異常があった場合、再度測定し管理者、ケアマネ に報告、相談している。また、必要に応じて、かかりつけ医、協力医療機関で受診出来るような体 制を取っている。				
		а	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量 について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家 族や医師、看護職等に情報提している。	0	毎日の薬は個人カルテの処方箋の記録や個々の服薬管理表で管理している。医療機関で処方された薬に変更があればきちんと効能や副作用について説明を受け、申し送りをしている。身体に、 異常があれば、管理者・ケアマネからご家族様や医師に伝え情報提供している。				
34 F	最薬支援	b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援 し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	0	職員が管理を行い1人の目ではなく2人体制でチェックし飲み忘れや、誤薬を防いでいる。名前を 言っていただき確認している。				
		С	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	0	服薬による副作用がないか、歩行は安定しているか、表情に変わりないか、排便の有無、食事量 のチェック等行っている。必要に応じて主治医に連絡している。				
		а	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または 状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その 意向を確認しながら方針を共有している。	0	入所時に、終末期について説明、話し合う機会を設けている。本人、ご家族様の意向を聞き、状態 に応じて変わることもあるが、今、現在の状態で対応するようにしている。				
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではな く、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、 方針を共有している。	0	本人、ご家族様の意向を尋ね、職員、かかりつけ医の主治医・協力医療機関等関係者と話し合 い、支援の方針を定めている。	0		0	
35 1	重度化や終末期への支援	С	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思い や力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極 めを行っている。	0	緊急時の対応について話し合い、職員の力量に応じて連携体制を整えている。医療行為が必要となればグループホームでは看ることが難しいことも伝えている。現在、終末期の入居者はいないが、管理者は職員の力量を把握している。				事業所として、看取り支援は実施していない。入居時に、管理者等は、利用者や家族に対応 できることなどを説明し、了承を得ている。事業所には看護師が配置され、日々の利用者の 健康管理をするほか、職員の相談に応じている。また、利用者が重度化した場合には、家族
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方 針について十分な説明を行い、理解を得ている。	0	本人への説明は出来ていないが入所時にご家族様には説明している。状況に応じて十分説明し 理解を得ている。				や主治医、関係者を交えて話し合い、方針を共有するとともに、職員に周知をしている。さらに、事業所で対応できなくなった場合には、他の施設や病院に転院をしている。
		е	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家 族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチーム で支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備 えて検討や準備を行っている。	0	本人やご家族様の希望を大切にし、主治医、医療機関と話し合い、職員間の意識の確認も行って いる。先行について見通しを立て特養への入所の順番変更や入院等、検討するようにしている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	0	ご家族様の気持ちに寄り添い、気持ちを汲みながら支援している。終末期が近い場合は、伝え心 の準備をお願いし入院先の希望等をお聞きしている。				
		а	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、 肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策 等について定期的に学んでいる。	0	流行する前、また流行期間中に、定期的に研修会を開き学んでいる。				
36	感染症予防と対応	b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染 症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう 日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	0	マニュアルを作成し、対応できるようにしている。コロナウイルス感染症の場合定期的に抗原検査 を行い毎日検温している。感染症の予防では手指消毒、テーブル、トイレ等の消毒を行っている。				
		С	保健所や行政、医療機関、関連維誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の 最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	0	いろいろな機関、新聞、メディア等から情報を取り入れている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来 訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	0	職員、ご利用者は手洗い、うがい、手指消毒を行っていただいている。職員はマスク着用、ご利用者にも外出時(医療機関受診時等)にはマスク着用している。来訪者等には検温、手指消毒、マスク着用していただいている。				

項目 No. 評価項目	小項目	頁	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
	а	職と	は員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を もにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	0	日頃より、ご利用者について相談し連絡を取っている。				
	b		R族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を ミっている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交 ₹)	Δ	5類に分類されても、コロナ禍の影響で、短時間での面会を設けており、家族会や運営推進会議 への参加以外は機会を設けることが出来ていない。行事の写真など撮ったりとご家族様と関係性 を保てる様支援に努めている。	0		0	
	С	を者	R族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容 把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用 の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよ」 」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	0	日常生活報告書で毎月伝えている。行事の写真は計画への署名に来てくださった時にお渡しする ことにより、暮らしぶりや様子を知ることが出来ている。また今年の家族会でご家族とLINE交換や メールを行い生活の様子、行事の様子等連絡出来るようになった。	0		0	コロナ禍や感染対策が続き、事業所の行事に、家族が参加できる機会がなかったが、コロナの5類移行に伴い、感染対策が緩和され、短時間の対面での面会が可能となり、利用者や家族に喜ばれている。また、対面での運営推進会議や家族会の開催を再開している。毎月、一人ひとりの利用者の日常生活報告書を家族に送付して、利用者の近況を伝えるとともに、
37 本人をともに支え合う家族と	d	を	れまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係 築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人 の理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きか 大関係の再構築への支援等)	0	コロナ禍により電話対応が多くご家族様へは「これが認知症ですよ」と疑問にくわしく説明させていただいています。令和4年7月コロナに感染し、ご家族様にはご利用者の身体レベルの低下がみられ、認知の進行があった時は特に詳しく報告させていただき、良好な関係を築けるよう支援している。				7介護保険の更新時に介護計画の署名を依頼し、その際に行事の写真などを渡すこともある。 さらに、令和5年に実施した家族会では、可能な家族に、SNSのLINEやメールアドレスの交換を行い、連絡が窓に取り合えるようになっている。連営上の事柄や出来事などを運営推進会議等の中で、報告することはできているが、職員の人退職や異動までの報告はできておる。
の関係づくりと支援	е	ゃ	『業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解 協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導 、、職員の異動・退職等)	Δ	毎月、日常生活報告書(本人の参加した行事や健康状態)はお届けしているが設備改修は報告していない。職員の異動については報告出来ていないが、退職については運営推進会議の議事録の郵送での報告となっている。	×		Δ	ず、利用者家族等アンケート結果から、職員の入退職などの情報が十分に家族に伝わっていないことが窺えるため、家族会や運営推進会議を活用して、新入職員を周知したり、毎月の日常生活報告書に記載している担当職員の交代や退職を報告したり、ほとんど異動がない場合にはその旨を伝えるなど、周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。加え
	f		J用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明 、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合ってい。	0	制限のない生活がリスクを生じることを説明し、介護者が1人でケアが重なった時に待っていただく 事が出来なくて転倒するリスクについては抑圧出来ないし、起こり得ることを何度も説明している。				て、来訪時や電話連絡時を活用して、管理者は積極的に家族に声をかけ、気軽に意見や要望を伝えてもらったり、相談に応じたりするなどの良好な関係づくりに努めている。
	g	りを囲	R族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えた相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰訇気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構その支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	Δ	面会制限の中、計画更新の時は必ず電話で気がかりなこと、意見、希望をお聞きしている。コロナ 摘の3年間は面会に規制をかけていたので署名や用事で来庵された時もゆっくりお話できていな かった。5類に分類され、移行後は面会は15分程度にしていただいており、面会が出来るようにな り、お互いに安心感が得られるようにしている。			0	
	а	い	2約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行 、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己 は担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	0	契約時にはわかりやすく説明し、「最後迄居られる施設ではありません。食事についての対応、1 番のリスクの転倒骨折についても理解が得られるように十分に説明しています。変更がある場合 にも何度も説明し納得を得られるようにしています。				
38 契約に関する説明と納得	b	U. Ki	見居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確に、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のい退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	0	退去についても十分に話し合いを行い、納得のいくよう、契約書に基づいた形で、数日間の猶予を いただき、また再び施設へ帰って生活したい(出来る)方には3ヵ月はお部屋を確保しておく等、詳 しく説明し、帰れない方には退去先に移れるよう支援しています。				
Ⅲ.地域との支え合い									
	а	地業	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事 所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	0	「自由に地域の中で」「新しい我が家」を理念に掲げ、地域の方と接する機会を大切にし、施設の目的や、役割をわかっていただくよう説明している。		0		
	b	暮深	1業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を 終め働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・ 1治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	Δ	5類に分類されても、コロナ禍の影響はあり地域の方々との交流はできていませんが、地域での 活動(文化祭の作品出展依頼)についてはご利用者と職員が協力して作品を出展している。作品 の掲示参加は職員のみとなっている。		×	0	
地域とのつきあいやネット ワークづくり ※文言の説明	С	利る	J用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えてい。。	Δ	5類に分類されても、コロナ禍の影響はありますが、近隣の農家の方が、電話にて連絡をいたき野菜や果物を持ってきてくださったり、玄関先に置いてくださる。				コロナが5類に移行されたが、令和5年の秋祭りの後にも再度の感染拡大があり、地域との
地域:事業所が所在する市 の日常生活圏域、自治会エア		地	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	Δ	婦人会の方、近所の農家のご夫婦等が寄ってくださっていたが、コロナ禍で野菜を持ってきて、「変わりないですか?」と声掛けし置いて帰ってくださる。				マ流は自粛状態が続いている。地域から、文化祭への作品の出展依頼があり、利用者と一緒に制作した作品を出品することができたが、職員のみの参加に留まっている。また、事業 ・所周辺の散歩時には、近隣住民と挨拶を交わすことができている。さらに、閑設から20年が
	е		近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらなど、日常的なおつきあいをしている。	Δ	外の掃除をしている時や、敷地内で散歩をしている時は、気軽に声をかけてくださる。				経過した事業所は、地域住民から認知され、野菜の差し入れをもらうなどの交流は継続している。加えて、敷地内にあるカフェや無人販売所を、地域交流の場として開放をしている。
	f	実常	i隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充 を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日 的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	0	コロナ禍の影響で立ち寄ることは出来ないが、婦人会の方が屋外の清掃に来てくださったり、馴染 みの美容師は感染症対策を十分に行い散髪してもらっている。				
	g	豊関コ	域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや 「機を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・ ンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・ 育施設等)。	Δ	5類に分類され、コロナ禍の中でまだ、周辺地域の諸施設とのかかわりは出来ていません。年2回の避難訓練は、消防署の方も一緒に参加し、総合訓練を行うことができ、また、救急訓練も、来庵していただくことが出来るようになりました。				

社会福祉法人愛媛県社会福祉協議会

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加 がある。	0	令和5年度コロナ禍から5類に移行後は、公民館、区長、婦人会長、民生委員、介護相談員等案 内状を差し上げた方には参加していただけている。ご利用者とそのご家族様はその時面会ができ ゆっくり話が出来るのでとても楽しみにしている。	0		0	運営推進会議は、利用者や家族、地区の区長、民生委員、公民館長、婦人会長、介護サー
40	運営推進会議を活かした取 組み	b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り 組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容 と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出され た意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表し ている。	0	2年前の報告はコロナ禍で書面でおこないました。皆様長年運営推進会議のメンバーをして下さっていたので十分理解して下さったと思います。今年は区長、婦人会長、民生委員等入れ替わりましたので、詳しく報告します。		0	0	ビス相談員、市担当者等の多くの参加を得て開催している。コロナ禍や感染対策が続き、会議は文書開催が続いているが、事前に利用者の様子やサービスの実施状況などを記載した資料を送付し、意見や感想を返信してもらっている。また、自己評価や外部評価のサービスの評価結果、目標達成計画等も、報告をしている。さらに、出された意見を報告するとともに、サービスの質の向上に反映することができている。加えて、議事録を全ての家族に送付
		С	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席 しやすい日程や時間帯について配慮・エ夫をしている。	0	会議の最後に次回月上旬等を伝えると「行事が多いため下旬のほうが良い」との返事を頂く等、希望に沿っている。		0		している。
17.ಪ	り良い支援を行うための運	営体的	bi					,	
41	理念の共有と実践	а	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、 代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	Δ	「自由に地域の中で」「新しい我が家」を理念に掲げ、地域の方と接する機会を大切にしてきましたが、令和2年の春から新型コロナウイルス感染症の関係で三密を避けており、令和5年コロナ禍から5類に移行後も地域の方とは接することが出来ていない。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えて いる。	Δ	ご利用者、ご家族様には利用開始時に説明している。また、運営推進会議に新規で参加してくださ る方には伝えるようにしている。 地域の人は説明した機会のみとなっている。	0	Δ		
		а	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	0	年間研修の計画を立て、研修の案内、情報の回覧をし、参加できるよう勤務調整をしている。どう しても参加してほしい研修には管理者の方から参加を促している。コロナ禍の関係で研修は、動画 配信をが中心となっているが、研修発表は毎月行っている。				
	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営して いる法人の代表者であり、理 事長や代表取締役が該当す	b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習) を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取 り組んでいる。	0	内、外部研修に参加した職員が勉強会で発表(報告)し、知識を共有している。コロナ禍の関係でリモートでの研修を受ける機会を多くしスキルアップできるよう取り組んでいる。				
42	るが、法人の規模によって、 理事長や代表取締役をその 法人の地域密着型サービス 部門の代表者として扱うのは	С	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	0	人事者課を行い、個々の努力や勤務状況に応じて昇給している。勤務差作成時、個々の希望を関いて、働きやすく、又資格取得には全面協力し、取得の際には給与についても配慮し働きやすい 職場環境づくりに努めている。				日頃から、代表者を兼ねる管理者は現場に出て、職員に声をかけ、意見や提案を聞くことができている。また、法人・事業所として、年間の研修計画を作成し、動画配信の研修を活用して、職員のスキルアップを図ったり、資格取得のサポートをしたり、職員の処遇改善に努めるなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。さらに、職員は管理者に気軽に意見を伝
	合理的ではないと判断される 場合、当該部門の責任者な どを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書 に記載する代表者と異なるこ とはありうる。	d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の 意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都 道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	0	同業者との交流の機会は少ないが、研修への参加を促し、意識の向上に努めている。コロナ禍で はリモート及びオンラインの研修を多く受講できるようにしている。				えることができ、希望休や有給休暇も取得しやすく、働きやすい職場環境と感じている。
		е	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や 環境づくりに取り組んでいる。	0	職員(個々)が話しやすく、相談しやすい環境作りに努めている。	0	0	0	
		а	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学 び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行 為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがない よう注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても 理解している。	0	定期的に身体拘束適正化会議を行うにあたり「虐待の芽チェックリスト(入所施設版)」を使用したり、また身体拘束職員研修の内部研修でテーマを取り上げ学び理解している。			0	法人内研修や勉強会で学び、職員は虐待や不適切なケアの防止を理解している。また、不 適切な言動が行われないように、日頃から、管理者は職員に指導や注意喚起をしている。定 規的に、「不適切ケアチェックシート」を活用して、職員自らの振り返りを行うとともに、常に意
43	虐待防止の徹底	b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	0	毎月のカンファレンス時に日々のケアについて振り返りを行い、ケア内容について話し合ったり、 毎日の申し送り時、日々話し合う場を作っている。				がかけて、「か適切がアチェックシート」を占用して、戦員自らの振う返りを打りととむて、希に思識した対応ができるよう努めている。さらに、不適切な言動が見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、管理者に報告して話し合うなど、職員間での情報共有や再発防止に、努めている。
		С	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに 影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	0	職員の体調変化や様子など注意し、見守っている。気になる職員には声掛けし、話を聞いている。 希望休、有給休暇と休みを大切にし、リフレッシュできるようにしている。				
		а	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	0	身体拘束適正化会議を概ね3か月に1度行い、年4回、身体拘束研修会を概ね半年に1回、年2 回行い、やむを得ない場合を学び正しく理解している。身体拘束を行っていなければ、日誌に本日 身体拘束ありませんの記述もしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り 組み	b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	0	身体拘束研修会で「虐待の芽チェックシート(入所施設版)」を定期的に使用し、都度振り返り表に 記入し言葉の拘束しているかも?の反省や主任指導による不適切ケアや虐待防止の話し合いを している。				
		С	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について 説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫 の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図ってい る。	0	身体拘束をすることにより、ご利用者に及ぼす影響や弊害について説明をし、理解を得られるよう にしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活	а	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度に ついて学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解し たうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情 報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	0	入所してからは成年後見制度を利用したご利用者はいないが、毎年、研修に参加した職員が講師 となり、研修を行っている。息子が母の年金を使い込んで、ご利用者の世帯分離、息子の生活保 護、ご利用者へ市の成年後見制度利用等具体的に支援した。				
	用	b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援 センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書 士等)との連携体制を築いている。	0	ご利用者、ご家族様の現状から、どの制度を利用するか?支援センターに電話相談すると訪問して下さり話し合い、支援をおこなった。				
		а	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や 事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	0	緊急時の対応マニュアルは作成し、各ユニットに常設し周知している。急変時は本人の安全を確 認し管理者、ケアマネに連絡し指示を仰ぐ。どんな時も落ち着いて対応できるよう周知している。				
	急変や事故発生時の備え・	b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、 実践力を身に付けている。	0	コロナが5類移行後3年ぶりに消防署の心肺蘇生法講習を行い初期対応?実践力を身に着けるように努めている。 う後は年1回実施していく予定です。				
46	事故防止の取り組み	С	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一歩手 前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討する など再発防止に努めている。	0	ヒヤリハットを作成し、すぐに対策方法を話し合い、職員に回覧しサインする。月1回のカンファレン スでも報告。運営推進会議で2ヵ月に1回報告している。事故報告はその都度市役所へ提出して いる。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険につい て検討し、事故防止に取り組んでいる。	0	状態の変化へ気づきをユニット内で共有、転倒のリスクや危険が1番多いので移動時の見守り付き添いを徹底している。1に見守り2見守り、事故防止に取り組んでいる。				
		а	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜 対応方法について検討している。	0	マニュアルを制作し、周知を図っている。苦情については苦情窓口が対応するようにしている。				
47	苦情への迅速な対応と改善 の取り組み		利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	0	契約時に苦情窓口があることを重要事項で説明し、伝えている。原因や対策を検討し、苦情が出 た場合はマニュアルに沿って応じて行政にも報告するようにしている。				
			苦情に対しての対策薬を検討して速やかに回答するとともに、 サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな 話し合いと関係づくりを行っている。	0	対策案を検討し、速やかに回答できるようにしている。苦情に対しては管理者と職員で対策を検討 し、ご家族様と話し合いよりよい関係作りに努めている。				
		а	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっ ている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、 個別に訊く機会等)	0	計画の更新時には、要望や苦情をお聞きしている。ご利用者の言葉や表情、態度に注意して、気 づいたことは職員間で話し合い、改善している。	0		0	
48	運営に関する意見の反映	b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができ る公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	0	ご家族様が病院受診で来られた時や、電話で要望をお聞きし、計画に反映するようにしている。気 になることや、苦情や相談についてもお聞きするように対応している。				事業所には相談窓口が設けられ、入居時に、家族等に周知をしている。日々の生活の中で、 職員は利用者に声をかけ、意見や要望を聞いている。また、家族には、電話連絡時や来訪 時を活用して、管理者や職員は積極的に声をかけ、個別に意見や要望を聞くようにしてい
40	是自己因为 3 态光 5 人员		代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・ 提案等を直接聞く機会をつくっている。	0	代表者は管理者も兼ねているので、職員の意見や要望はいつでも聞いてくださる。 又ユニットにも 入りご利用者を気にかけ声かけなどを行っている。				る。さらに、代表者を兼ねる管理者は、日々の申し送りやカンファレンスに参加して、職員から 意見や提案を聞くなど、利用者本位のサービス提供に繋げている。
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	0	管理者は朝の申し送りミーティングにも必ず出席し、職員の意見や提案を聞き、利用者本位の支援を考えどのように課題を解決していくかを職員と相談・検討を行っている。又トライアンドエラーの検討も協力的であり利用者の要望は管理者に報告相談をしている。			0	
		а	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解 し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	0	管理者、職員はサービス評価の意義から目的を理解し、外部評価が来られない年も全員で自己 評価に取り組んでいる。				
49	サービス評価の取り組み		評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	0	評価を受けて出来ていない所を話し合い目標達成計画を作成し、その達成に向けて取り組んでいる。				7毎年、全ての職員で自己評価に取り組み、管理者等を中心に取りまとめて作成をしていることもあり、職員はサービス評価の意義や目的を理解している。また、外部評価のサービスの評価結果と目標達成計画等は、運営推進会議の中で報告するとともに、職員間で目標達成に向けて取り組んでいる。目標達成の取り組みの状況も、会議の中で報告しているが、地域
,,,	- m m ; m - 2 TO 2 TBAT 2	С	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、連 営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモ ニターをしてもらっている。	Δ	ご家族様、運営推進会議のメンバー(行政を含む)に報告しているが、モニターはしてもらっていない。	0	Δ	0	の参加メンバーが交代したこともあり、十分な理解促進までには至っておらず、集合形式の 会議の中で、意義や目的を伝えていくことも期待される。さらに、感染対策の落ち着いた際 に、会議の参加メンバーに事業所の取り組みを丁寧に報告して意見をもらったり、目標達成 の取り組み状況のモニターしてもらったりするなどの取り組みが行われることも期待される。
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	0	運営推進会議や事業所内のカンファレンスで取り組みの成果を報告している。	/			

項目 No. 評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
	а	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成 し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害 等)	0	令和5年4月よりBCPを作成しあらゆる場合に備え、マニュアルを作成し各ユニットに備えて周知している。				
	b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避 難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して 行っている。	0	火災に関しては、5類移行後、消防署職員が参加して日中夜間帯想定の避難訓練を行っている。 土砂災害は6月に実施後行政に報告している。地震災害は9月初旬、不意打ちで行っている。				
50 災害への備え	С	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品 類の点検等を定期的に行っている。	0	消火設備や避難経路の点検は契約業者が年2回点検している。非常食料・備品・物品類等については令和5年4月に作成した事業継続計画(BCP)に記録し、定期的に点検している。				年2回、昼夜や火災、土砂災害などを想定した避難訓練を実施している。事業所は、西条市 行政から土砂災害警戒区域内の要配慮者利用施設に指定され、避難確保計画のほか、地 震や風水害などの対応マニュアルを作成している。コロナ禍や感染対策が続き、地域住民と 合同の避難訓練の実施はできていない状況が続いているが、地域住民との協力支援体制を
	d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	Δ	コロナ禍で5類に分類され令和5年6月から消防署と一緒に総合訓練を行っている。近隣の協力 体制は確保している。他事業所は2km以上離れたところに社協のデイサービスしかないので連携 は出来ていません。	0	0	0	古同の妊難訓練の美地はできていない状況が続いているが、地域住民との協力支援体制を 確保することができている。また、管理者は地域の防災訓練に参加協力をしている。
	е	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同 訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市 町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	0	コロナ福で事業所独自での訓練しかできていないが、土砂災害危険個所に指定されているため、 災害時には地域の人との協力体制が取れるよう声がけしている。また、土砂災害以外の災害時に は近隣地域の方の避難個所として使用させてほしいと申し出が出ている。				
	а	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)		5類に分類され、コロナ禍の中で地域の公民館活動は少しずつではありますが、職員のみの参加が出来だしました。運営推進会も議開催することができるようになっております。				
	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を 行っている。	Δ	施設見学も中に入り15分程度で見ていただきながらの説明です。電話や来庵による介護相談を 管理者又はケアマネが行っている。		×	Δ	コロナ禍や感染対策が続き、積極的な啓発活動まではできていないが、事業所は地域住民 から認知され、入居希望などの相談が寄せられて場合には、快く対応をしている。以前は、
51 地域のケア拠点としての機		地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。 (サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の 集まりの場等)		5類に分類され、コロナ禍の中での影響で、地域の方との行事への参加はできていません。地域 の人達が集う場として、敷地内のカフェや無人販売所は開放していています。			/	・地域の小学校に出向いて、介護講座の講師を務めたり、中学生の職場体験の受け入れに協力したりすることもできていた。また、敷地内にあるカフェや無人販売所を、地域住民の交流の場として附放をしている。さらに、感染対策も緩和され、引き続き、市行政や地域包括支援したシターなどの関係機関と連携を図りながら、地域活動に協力していくことも期待される。
	d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	コロナ禍の関係で今年度は受け入れ依頼はありませんでした。				ことと、今日の同意の意味というに関いません。 いっぱん 日朝 日間 プログラン・ハーロ 日報 日 ロック・
	е	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育 等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら 行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	コロナ禍の関係で外部との接触は控えているので、地域活動は行っていません。			0	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

- I.その人らしい暮らしを支える
 - (1)ケアマネジメント
 - (2)日々の支援
 - (3) 生活環境づくり
 - (4)健康を維持するための支援
- Ⅱ.家族との支え合い
- Ⅲ.地域との支え合い
- IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価! ステップ 外部評価でブラッシュアップ!! ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

2 PPR										
評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会									
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号									
訪問調査日	令和5年12月8日									

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	11名	(依頼数)	18名
地域アンケート回答数			5名	

※事業所記入

事業所番号	3873100154							
事業所名	グループホームこうゆう庵							
(ユニット名)	ユニットⅡ							
記入者(管理者)								
氏 名	天崎 るみ							
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 1 日							

⇒ /≖ 4+ 用 **±**

(別表第1の2) [前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果] *介護計画の目標やサービスに基づいた記録にまでは至っていない計画を意識したサービスの実施内容が記載出来るよう職員間で検討するなど、 [事業所理念] 【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 自由に地域の中で自然体でいられる日々の支援に繋げられること 開設して20年が経過した幹線道路沿いにある事業所は、のどかな田園地帯に立地している。敷地内に は、野菜の無人販売所やカフェがあり、地域住民の交流の場として開放をしている。事業所として、利用者 しの小身機能の維持に努めるとともに、主体性を持って明る(小豊かに過ごしてもらいながら、利用者にとっ ①介護計画の目標にナンバーはついていたがサービス内容に数字を入れ記録にナンバーと数字を入れる。 - 指摘を受けた評価日(R3.12.15)のタ方の介護計画の目標やサービス内容に数字をふり、ケース記録に記入していく。以前に行っていた事なの 「新しい我が家」を提供します て事業所が新しい我が家となるように、職員が一丸となって、より良い支援に取り組んでいる。また、コロナ で当日より実施、続けている。 【事業所が新しい我が多となるように、職員が一丸となうと、より良い又抜に取り組んといる。また、コロデ 禍や感染対策が続き、利用者が家族や地域と関わりを持ちながら暮らしていけるように、運営推進会議の 施設が新しい我が家であることを踏 まえご利用 * 事業所の運営上の事柄は運営推進会議に記載しているものの、家族の参加が限定されているため、理解が得られていない、家族への周知方法 あり方を工夫している。さらに、動画配信の研修を活用して、職員のスキルアップを図ったり、資格取得のサ 者の適正に配慮した住みよい住宅 を職員間で検討してほしい ポートをしたり、希望休や有給休暇を取得しやすくするなど、働きやすい職場環境づくりにも取り組んでい - 城員間で扱わせては800~ ②家族会議が開催されれば詳しく説明する。 新規入所の家族(親子)に声掛けして運営推進会議に参加していただく。 を提供します る。加えて、管理者と職員との良好な関係も築かれ、利用者の穏やかな生活に繋がるとともに、職員間で検 R4430・R5421開催の家族会議で外部評価・運営推進会議について詳しく説明を行う。家族会議、運営推進会議の結果については、結果を 討をしながら、利用者本位のより良い支援に繋げている。 ・ご利用者の方々の自主性の尊重を 郵送するようにしている。 基本として、 型 明るく心豊かに過ごせるようお世 話いたします

【実施状況の評価】

Ē	Ŧ	価 結 果 表		e.ma.xxの計画』 よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない				
評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
その人らしい暮らしを支える								
)ケアマネジメント								
	а	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努 めている。	0	ご家族様が困って入所される方がほとんどなので、これまでの生活歴や日々での関わりの中で施 設になじんで下さるかどうか?利用者の思いを聞き、意向を把握する様努めている。	· ()		0	
	b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という 視点で検討している。	0	本人視点が一番と解っているが介護者が困って入所するケースがほとんどなので日々の関わりの 中、ご利用者の表情や言葉から汲み取る様努め、ご家族や関係者にも相談している。				、 、 、 、 、 、 大居前に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、思いや意向を聞くよう努めている。日
思いや暮らし方の希望、意向 の把握	С	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)ととも に、「本人の思い」について話し合っている。	, Δ	ご家族様から本人の思いは聞いているがコロナ禍で面会も少ない。親戚までは難しいが、その他の関係者(友人)から情報を得られるよう努めている。				の関わりの中で、職員は利用者の思いや意向を把握するよう努めている。また、24時間 シートを活用して日課のほか、意向や好み、自分のできること、サポートが必要なことなど、
	d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録を している。	0	課題分析表やアセスメントシートを利用し、職員間で共有している。				詳しく情報収集して取りまとめ、定期的に、アセスメントシートの情報を更新している。
	е	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさな いように留意している。	0	ご利用者本人の立場になり考えるように努めているが関係者からの情報にも耳を傾ける。発語の無い人や幻覚幻聴のある利用者の思いはたくさん話をして思いを見落とさないように留意している。				
	а	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや 大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の総 通等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞し ている。		入所以前に関わっていたケアマネから詳しい情報をいただき、本人、ご家族様と面接して環境やこれまでの生活を把握し、フェイスシートに記録をし、入所後、知り得た情報も記録を行い、計画に活かしている。			0	入居前に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、生活歴や生活環境などの詳細な情報 聞き取りをしている。また、これまで関わってきた介護支援専門員や関係機関の担当者か
これまでの暮らしや現状の把握	b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有するが (わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に 努めている。	0	本人面接時にご家族様から詳しく聞いて把握に努めているが、日や時間によっても状態が異なる 時もあるため、都度、把握する様努めている。入所時はとりあえず1ヵ月の計画を作成している。				・情報収集をしている。また、把握した情報は、フェイスシートやアセスメントシートの中に詳な記録を残し、職員間で共有をしている。入居後にも、日々の生活の中で、利用者から情報とともあり、新たに得られた情報はアセスメントシートなどに追記するとともに、日々の
	С	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	ė O	24時間シートに入所1週間を目途に本人の思い、出来ること、必要な介助を詳しく記入してもら い、変化についても記録を行い、それをもとに、1ヶ月後の計画を作成している。				より良い支援に繋げている。
チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみな	а	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを 本人の視点で検討している。	0	24時間シートをもとに、1ヵ月後のカンファレンスでは利用者の状況に応じて何をするべきか本人 の視点に立って考え計画立てるように心がけている。		1/	0	利用者ごとの担当職員を中心に、日々の暮らしの様子や職員の気づきなどを記録した24間シートを活用して、情報を把握している。また、事前に聞き取った利用者や家族の意見・
らず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の 把握に努めている。	0	カンファレンスの時本人に望みを聞くが「わからん、今のままでいいよ」の返事が多い、職員と話し合い本人らしく暮らせるよう、健康管理を含めて3つの課題に絞り込めるよう今後の課題について検討している。。				希望などを踏まえて、把握した情報をもとに、カンファレンスを開催し、利用者の視点に立 職員間で検討をしている。
	а	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている	. Δ	コロナ禍の3年間は外出、外食の希望には添えていない。それ以外の思いや意向は本人、ご家族 と話し合い思いや意向を反映したプランを心がけている。				
チームでつくる本人がより良 く暮らすための介護計画	b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方につ いて、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの 意見やアイデアを反映して作成している。		状態が落ち着いている人は6ヵ月毎に、コロナに感染した人は状態を見極め、ご家族様や本人の 思いを十分聞いてカンファレンスで日々の介護方法を含めまとめ、ブランに反映している。	0		0	24時間シートやモニタリング情報等を活用して、カンファレンスの中で検討を行い、一人び りの利用者の課題を明確にして、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また 利用者や家族の意見のほか、関係者の意見やアイデアを反映した計画となるよう努めて
(骨の) たいが月 設計 四	С	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や 日々の過ごし方ができる内容となっている。	0	重度のご利用者の24時間シートは特に細かく行動を記入してもらい本人がどう過ごしたいか考えながら他のご利用者との関わりが持て、穏やかに暮らせるよう、努めている。				・村川省 で
	d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等な 盛り込まれた内容になっている。) ⁽ Δ	コロナ禍の3年間は受診付き添いと計画の相談をご家族様と行うだけで、地域の人たちとの関りに 難しいが、5類移行後もあまり変わりなし。屋外での面会は出来るようにしている。	‡ /			

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の	а	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間 で共有している。	0	定期的なカンファレンスで計画更新者のモニタリングを行い援助項目の変更継続を検討している。 他全員の状態確認を行い支援経過に記入している。			0	24時間シートの作成のほか、定期的なカンファレンスの中で、職員は利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握して理解するとともに、職員間で情報を共有している。また、利用者の個別のファイルには、介護記録と一緒に介護計画が綴じられ、記録の際に、職員は計画を確
	支援	b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったか を個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、 日々の支援につなげている。	0	モニタリングで実践出来たか確認している。長期に渡って出来ない目標の場合は変更をする。毎日のケア記録に目標やサービス内容に数字をふり、ケース記録に記入している。			0	認できるようになっている。さらに、介護記録には、計画の目標やサービス内容の番号を付けて、計画に沿ったケアの実施状況を分かりやすぐする工夫を行い、職員間で共有し、日々のより良い支援に繋げている。
		а	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	0	定期的に見直しているが、入所直後は1ヵ月、状態の安定している人は6ヵ月、6ヵ月が無理な人は2~3ヵ月で見直ししている。状態の変化に応じて見直す場合もある。			0	入居後すぐに、暫定の介護計画を作成して、利用者の様子を観察しながら1か月で計画の見
6	現状に即した介護計画の見 直し	b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	0	毎月必ず、計画更新者のカンファレンス、それ以外の人も毎月状態を確認し、支援経過に記入している。			0	直しをするとともに、その後は、介護計画の短期目標の期間に応じて、3~6か月に1回計画 の見直しをしている。また、新たな要望や変化が見られない場合にも、毎月利用者の現状確 認を行い、記録に残すことができている。さらに、利用者の心身の状態に大きな変化が生じ
		С	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時 本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した 新たな計画を作成している。	0	入退院や状況に変化が生じた場合は、アセスメント計画を新しくしている。歩行出来ていた人が車 ・			0	た場合には、状況に応じて関係者で話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。
		а	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、 あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催してい る。	0	月1回のカンファレンスで状態確認を行っている。緊急案件は各ユニットの職員を召集して話し合 いを行っている。			0	月1回、ユニットごとに時間をずらしてカンファレンスを開催し、運営上の課題を職員間で検討するとともに、全ての利用者の現状を確認している。緊急案件のある場合には、その日の出
7	チームケアのための会議	b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話 し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫 している。	0	各ユニット別々でカンファレンスを行うので活発な意見交換ができ、新規職員も意見を言い合える 雰囲気となっている。。				動職員で話し合いをしている。また、カンファレンスの開催に合わせて、勉強会を実施する場合もあり、ユニット合同でタ方の時間帯に開催をしている。さらに、カンファレンスには、全ての職員が参加できるように、事前に日程調整をしている。加えて、会議に参加できなかった職員には、作成した会議録を確認してもらうとともに、重要事項は、管理者から口頭でも伝達
		С	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が 参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加で きない職員にも内容を正確に共有している。	0	毎月1回ほとんどの職員が参加でカンファレンスを行っている。参加できない職員は、カンファレンスノート(会議録)を見て確認してもらっている。管理者からも伝えている。			0	をしている。
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員 に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・ 家族とのやり取り・業務連絡等)	0	毎日業務を始める前に業務日誌に目を通し、朝夕の申し送りで勤務に入った職員は口頭で伝達を受ける。ご家族権からの伝達も日誌に記入し情報の共有を図っている。申し送りノートに目を通し、 サインをするので全員に伝わっている。	0		0	業務日誌や生活記録、申し送りノートを活用して、日々の朝夕の申し送りを口頭で実施し、情報伝達をしている。また、職員が業務に入る前に、業務日誌等に目を通して確認し、確認後にサインを残すなど、確実な情報伝達に努めている。
(2)	 日々の支援			<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	
		а	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶え る努力を行っている。	0	本人の出来ることや出来そうなことを把握し、叶えられるよう支援している。その日によって本人が 出来ない時もある。				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	0	入浴の準備など服を選んで頂いたり、自己決定できるよう声かけしたり話を聞いたりしている。			0	日々の暮らしの様々な場面で、職員は一人ひとりの利用者の意向に沿った支援を心がけ、
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	С	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの ベースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、 食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	0	食事や入浴など時間を決めさせてもらっているが、本人の希望など聞いて時間をずらしたり、1人 1人のペースでできるよう支援している。				利用者が自己決定できるように声をかけて、選択してもらえるように工夫をしている。訪問調査日には、柿の皮をむきながら、「包丁の切れが悪いなあ」などと会話を行い、丁寧に干し柿づくりをする利用者の様子を見ることができた。また、元音楽教師の利用者が、鍵盤を弾いた演奏に対して他の利用者が拍手をしたり、ジグソーパズルをしたりするなど、利用者が好きな
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等) を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	0	なるべく声かけをして、本人は笑って過ごせるような雰囲気作りを行っている。お手伝いやレクリ エーションなど上手にできると「すごい上手」など声かけしている。			0	ことや得意なことをしながら、楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		е	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の 意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	0	毎日表情や行動など観察しながら、どうしたいのか?など聞きながら、本人らしく生活出来るよう支援をしている。				
	一人ひとりの誇りやブライバ	а	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやブ ライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意 識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声か けをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉がけや対応等)	0	研修や勉強会など学べる機会を設けている。声かけや対応の仕方など気を付けながら支援を 行っている。	0	0	0	い 一内耳枚の内で 一体の首能からな曲でしまし 味らは到田本チールのとました。 マ
10	シーを尊重した関わり	b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー 等に配慮しながら介助を行っている。	0	排泄時はトイレの外で待ったり、入浴時も同性の職員にて介助したり配慮しながら行っている。	/		\angle	法人内研修の中で、人権や尊厳などを学ぶとともに、職員は利用者を人生の先輩と敬い、プライパシーにも配慮して意識した支援が行われている。日頃から、管理者は職員の適切な言動が行われるように、指導や注意喚起をしている。さらに、居室をプライパシーのある空間と
		С	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	0	居室の出入りなどする際は、声かけをさせていただいています。			0	認識し、中には、利用者の希望で扉を開放している居室もあるが、入室の際に、職員は必ず 利用者に声をかけ、了承を得てから入室をしている。
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止 等について理解し、遵守している。	0	勉強会などで学びブライバシーの保護、個人情報が漏れることの無いように努めている。				

項目 No.	評価項目	小項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に 助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関 係性を築いている。		ご利用者から学ぶことがあったり、助けて頂いたりするので感謝しあえるよう努めている。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしてい くことの大切さを理解している。	0	ご利用者同士の交流や助け合いなど大切にし、暮らせるようにしている。				職員は、利用者同士の関係性や性格を把握し、配席の考慮をするなど、トラブルが起こらな
11	ともに過ごし、支え合う関係	С	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立 したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮を する、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の 利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	1	ご利用者同士のトラブルもあるため、その時々で考え、席の順番や孤立したりしないように配慮している。			0	いように配慮をしている。また、利用者が孤立しないように、職員は声をかけ、寄り添うなどの対応をしている。さらに、仲の良い利用者同士が一緒に過ごせる場や機会の提供にも努めている。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に 努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないよう にしている。	0	トラブルが起きた場合、ご利用者と職員で話し合い、ご利用者が不安になったりしないようにトラブルを解消したりしている。				
		а	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人 間関係や馴染みの場所などについて把握している。	Δ	キーパーソンやご家族様はほとんど把握できているが入所後訪問していない兄弟や友人などは扎握できていない。		1/		
12	馴染みの人や場との関係継 続の支援	b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	Δ	新型コロナウイルスの関係でなかなか面会も難しかったが窓越しや検温等を行い面会が以前より 出来ている。				
13	日常的な外出支援	а	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に 沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。 職員側の 都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固 定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	0	コロナワクチン接種後は職員とご利用者で敷地内で散歩やカフェへは行くことができる。	0	×	0	コロナ禍や感染対策が続き、外出制限が設けられ、徐々に緩和されてきているものの、地域 の感染状況から、以前のような外出支援までは行えていない。日頃から、天気のいい日に は、事業所周辺を散歩したり、中庭に出て外気浴をしたり、敷地内にあるカフェで食事をする
10		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も 得ながら、外出支援をすすめている。	, Δ	新型コロナウイルス感染症の関係で外出はできてはいないが敷地内へのカフェへ行くことができる。		/		など、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、ドライブをして、季節の花を見に行くなど、気晴らしができるような支援にも取り組んでいる。さらに、外出時には、車いすの利用者も一緒に、出かけることができている。
		а	職員は認知症や行動・心理症状について正し〈理解しており、 一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因を ひもとき、取り除くケアを行っている。	0	施設内で勉強会を行ったり研修会に参加したり、ケアマネや他の職員に聞き認知症への理解を深めるよう勉強している。				事業所では、一人ひとりの利用者の「できること、できそうなこと」を把握し、着替えや食事な
14	心身機能の維持、向上を図 る取り組み	b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・味 機能 の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上 が図れるよう取り組んでいる。	0	無理強いせず個々の能力やその日の体調に応じて体操したりレクリエーションを楽しんでいただき、維持・向上が図れるように取り組んでいる。				ど、できることは時間がかっても自分でしてもらい、職員は見守りや一緒に行うなど、少しでも 心身機能の維持や向上を図るような支援に努めている。また、入浴時の着替えの準備等の 際に、職員は一つひとつをゆっくりと利用者に声をかけながら、準備してもらうこともある。さら に、洗濯物干しやたたみ、入浴時の洗身や更衣など、介護計画の中に取り入れ、日常生活
		С	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を 極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づく り、環境づくり等)	0	時間がかかっても出来ることは見守ったり、お願いして一緒に行っている。	0		0	の中で、できることを継続してもらい、維持ができるように取り組んでいる。
15	役割、楽しみごと、気晴らしの 支援		利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏ま えて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握し ている。	0	1人1人の能力や好みなどに応じて出番や役割を作るようにしている。				洗濯物干しやたたみ、食器洗い、お盆拭きなど、職員は利用者に声をかけ、できることや得 意な役割、出番を担ってもらえるよう支援している。また、手伝ってもらった後に、職員は「あり
15	支援		認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある 日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとり の楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	0	テーブルやお盆拭き、食器洗いや洗濯物を畳むなど何が得意かを考え役割分担して、充実感を明わって頂くようにしている。	0	0	0	がとうございました」などの感謝の言葉を伝えている。中には、仏壇や位牌を居室内に持ち込んでいる利用者もおり、毎日拝むなどの日課を大切にした支援も行われている。

社会福祉法人愛媛県社会福祉協議会

項目 No.	評価項目	小項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	B 重
		а	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人ら しい身だしなみやおしゃれについて把握している。	0	鎌を見て髪を溶かしている。襟足と耳に髪がかかりだすと、カットしたいと言われる。病院受診に行 く時、ご利用者と一緒に服を選んでいる。				
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	0	髪が伸びて来るとカットしたいと希望される。その時の髪型を聞いている。				
		С	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアド バイスする等本人の気持ちにそって支援している。	0	可能であればご家族にその季節にあった本人の好みに合う衣類を必要量用意していただき職員 が気候などにふさわしいものを準備し本人に見ていただき着替えを準備する。				起床時に、職員は利用者に声をかけ、着替えや身だしなみを整えてもらい、見守りやできない部分のサポートをしている。また、利用者のプライバシーを配慮し、整容や身だしなみの乱」れが見られた場合には、さりげなくフォローを行い、訪問調査日には、違和感のある服装や
16 身	だしなみやおしゃれの支援		外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装 を楽しめるよう支援している。	0	外出時等で着替える際クローゼット、箪笥までご一緒して好みの服を選んで頂く。気候などにふさ わしくない物を選択されたときのみアドバイスする。				整容の乱れなどは見られなかった。さらに、食べこぼしなどの服装の汚れが見られた場合には、さりげなく居室に誘導し、着替えてもらうなどの対応をしている。加えて、ベッドでの臥床
		е	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしてさりげなくカ バーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	0	飲食時、手拭きタオル、ティッシュなどを手近に準備し、素早く汚れをふけるよう対応する。 着替え が必要なほど汚れた場合、折を見て居室に誘導し着替えていただく。	0	0	0	時間が長い利用者にも、食事の際に、更衣してリビングに出て食事を摂ってもらうなど、パジャマのままで、1日中過ごすことのないようなメリハリのある支援も行われている。
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	Δ	コロナ感染症以来は外の美容院には行けないが美容師に出張していただき施設内の美容室で希望する髪型にカットしていただだいている。				
			重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てるエ 夫や支援を行っている。	0	本人の状態に合わせて過ごしやすさ、着心地、着脱のしやすさを重視しながら、その上で似合う髪型、服装を選択させていただいている。	/			
		а	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	0	食事をする時の姿勢はどうか、食べる様子はどうか、どう食べたか健康面や心理面を大切にして いる。				
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともに行っている。	0	食材の下ごしらえ、食卓の準備、食事に使用するお盆を拭くなど各ご利用者が出来る事を見つけ 参加してもらっている。			0	
		С	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を 行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげてい る。	0	各ご利用者が出来る事を見つけ、担当を決めて毎日その仕事を行ってもらい施設内での自分の 役割を見つけてもらい自信につなげていただけるようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの 有無などについて把握している。	0	アレルギーや苦手な食べ物は入所時に把握、確認し好みを本人から良く聞き取り行事食やおやつなどに取り入れている。				
			献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレル ギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用 者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	0	ご利用者の好きな食べ物、食べたい物をお聞きし、行事食の際には、昔どうしていたかを聞き、参 者にしながら旬の食材を取り入れて献立を立てたり季節感のある食事を提供している。			0	が少ない場合には、事業所で用意した食材を加えて提供することもある。また、行事などの
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等 の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付 けの工夫をしている。(安局にミキサー食や刻み食で対応しな い、いろどりや器の工夫等)	0	ミキサー食は提供していません。各ご利用者の体調に合わせ主食をおかゆにしたり、おかずを小さく切った後で形を整え見た目よく盛り付けるようにしている。		1/		ア際に、利用者の好みのメニューを聞き、職員が調理することもある。以前は、利用者と一緒に 買い物に出かけていたが、感染対策で現在は、職員のみで買い物に出かけている。利用者 の嫌いな食材やアレルギーの有無などは、業者に伝えられ、業者から代替えの食材が届け られている。下膳やテーブル拭き、食器洗いなどを利用者に手伝ってもらうとともに、行事食
17 食援	事を楽しむことのできる支	g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使 用している。	0	響の利用が難しい方にはスプーンやフォークを用意したり、力の弱い方には取手の付いた軽い コップで飲み物を提供したりして自分の力で食事を摂りやすいように食器を選んでいる。自分の箸 を用意できる人はしてもんっている。	/		0	一の巻き寿しなど、利用者に作ってもらうこともある。以前は、茶碗や湯飲み、箸などの食器類は、利用者の使い慣れたものを持参してもらっていたが、現在は、利用者の状況に合わせ 二て、事業所で用意した物を使う利用者が多くなっている。食事の際に、以前は職員は利用者
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	0	コロナ感染症以来、共に食卓を囲むことはなくなったがご利用者の食事を職員が交代で見守り付き添いサポートをする。その時必ずマスク等着用している。			0	と一緒の食卓を囲み、同じ食事を摂ることができていたが、感染対策等で保健所の指導もあ
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して 利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくり や調理に配慮している。	0	食事前に声がけを行い、職員がエプロンをし食事の際にはメニューを説明しおいしく味わっても らっている。	0		0	グに出てきてもらい、オープンキッチンでの調理の様子や匂いを感じることができている。昼食と夕食は、配食業者の管理栄養士が旬の食材を取り入れて、栄養バランスの取れた献立を作成するとともに、管理者は、朝食の献立を配食業者に伝えるなど、1日を通してバランス
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養 パランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるよう にしている。	0	水分などがぶ飲みされる方、どんなに薦めても飲んだと言われる方様々であるが一日の摂取量を 取れるように回数を増やしたりと工夫して1日の水分摂取量を確保できるようにしている。				の取れた食事を提供できるように配慮されている。
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食 事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄 養や脱水にならないよう取り組んでいる。	0	今の所、食事量が少ないご利用者はいないが、栄養を補う水分にはおやつにノンアルコールビールや、果物等を出したり好みの物を摂っていただいている。				
		1	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養 士のアドバイスを受けている。	0	当施設には栄養士がいない為に栄養バランスの良い食事を配食業者に提供していただいている。朝食など施設内で調理する場合もバランスを考え全職員で吟味しメニューを決めている。			0	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を 日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めてい る。	0	手洗い手指消毒を心がけ食材にじかに触る際はポリエチレン手袋をつけて触る。生ものは出さず 必ず加熱している。				

項目 No.	評価項目	小項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っ ており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	0	職員が研修、勉強会等に参加し、カンファレンスなどで発表し情報を共有し口腔ケアの必要性、重要性を理解し、ご利用者の口腔ケアを行っている。				
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	0	口腔ケア時、自身で行えるご利用者の場合でも外した義歯の状態や口腔内の状態をチェックし磨 き残しがあればもう一度磨いていただくか職員が仕上げ磨きしている。			0	毎食後に、職員は利用者に声をかけ、リビングにある洗面台で口腔ケアを実施している。自
18	口腔内の清潔保持	С	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について 学び、日常の支援に活かしている。	0	歯科治療を受けた後などに口腔ケアについて歯科医師のアドバイスを聞き日々の口腔ケアに役 立てている。				分で歯磨きができる利用者にも、職員が磨き残しがないように確認し、全ての利用者の口腔 内の状態を確認することができている。また、義歯のある利用者にも、職員は声をかけなが ら、利用者自身に洗浄をしてもらい、できない部分のサポートをしている。中には、うがいがで
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	0	毎食後、義歯を外し、きれいに洗うように声かけをし、必要であれば職員がきれいに洗う。夜間は 入歯洗浄剤につけて消毒を行う。				きない利用者もおり、ガーゼなどの口腔ケア用品を使用して、残渣を取り除くように支援をするなどの清潔保持にも努めている。
		е	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じな いよう、口腔の清潔を日常的に支援している。歯磨き・入れ 歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医 の受診等)	0	声かけ見守りの上で萎歯の洗浄、歯ブラシを慢しく歯に当て磨くように説明しうがいをしていただき 出来ない方は職員が行う。その時、口腔内の異常をチェックする。毎日口腔内を観察し、本人の訴 えや、異常があれば歯科医の受診に連れて行っている。			0	
		а	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能 を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含 む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解し ている。	0	可能な限り排泄の自立を目標とし布パンツを使用できるよう支援をする。やむを得ず紙パンツ等を 使用する場合も布パンツと同様毎回トイレで排泄出来るよう支援する。				
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	0	便秘の要因となる食事量や内容、水分量を考えた上で便秘が解消しない場合通じ薬等、便秘薬を 医師に処方していただき、排便コントロールしている。				
		С	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	0	排泄チェック表を使用し、ご利用者の排泄のサイクルを把握し、便秘薬の増減をしたり医師に相談 したりして健康状態をチェックしている。		\angle		
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、 一人ひとりのその時々の状態にあった支援を行っている。	0	紙パンツ、パットはあくまでも補助的なものとし排泄チェック表を参考にし定期的にトイレ誘導を行っている。	0		0	事業所では、基本的に利用者がトイレで排泄できるように支援に取り組み、排泄チェック表を 活用して、一人ひとりの利用者の排泄パターンを把握し、職員は声かけやトイレ誘導などの
19	排泄の自立支援	е	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる 点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行ってい る。	0	排泄困難なご利用者には、排泄をしやすくする姿勢をとるようにアドバイスしたり腹部マッサージなどをしてサポートしている。		\angle		支援をしている。また、トイレで排泄できる利用者には、夜間にもトイレに誘導して、排泄介助 を行い、現在、夜間に居室でポータブルトイレを使用している利用者はいない。さらに、職員 の早めの声かけや誘導をすることで、夜間のみパッドを使用している利用者も多く、昼夜とも
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早 めの声かけや誘導を行っている。	0	排泄チェック表をもとに、早めに声をかけ、トイレ誘導を行っている。				に紙おむつで過ごす利用者はほとんどいない。加えて、利用者の排泄状況に応じて、パッド や紙パンツなどの排泄用品を使用する場合には、職員間で必要性を十分に検討し、家族に 了承を得た上で使用をしている。
		g	おむつ(紙/シツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	0	ご自身で判断ができ、自分で使用出来る方は、使い慣れた物か、それに準ずるものを使用していただき、判断が難しい方は、ご家族様と相談してより良いものを使用する。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	0	本人の健康状態によって布パンツを使えるか、紙パンツ使用かパット使用かを、朝の申し送り時な どで確認し、その日その日で決定している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて 便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	0	水分量が足りなくて便秘になりやすい方には水分を積極的に摂取するように声掛けし、好みの飲み物を薦めることによって少しでも水分を摂取しやすいようにしている。				
		а	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人 ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	0	時間帯は天気や気温によって決めている。長さや回数はご利用者1人1人の希望や体調に合わせて調整している。	0		0	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	0	体調をみながら本人が出たいと思うまで湯舟に入ってもらえるよう心がけている。				週2~3回、利用者は入浴することができる。季節や気温により、入浴できる時間帯を変更す
20	入浴を楽しむことができる支 援	С	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援してい る。	0	自分で洗えるところは基本的に洗ってもらい、その後職員が出来ない所を介助している。				ることはあるが、利用者の希望に応じて、湯の温度や湯船に浸かる長さなど、柔軟に対応をしている。また、毎日の入浴希望が出された場合には、対応することも可能となっている。中 には、入浴を拒む利用者もおり、時間帯や職員を変えて声かけをするなどの対応を行い、気
	技	d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、 無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	0	入浴前には声かけを行い、実施している。拒否される方はあまりいない。				には、人治を拒む利用有もあり、時间帯や戦員を変えて戸かりをするなどの対応を行い、気持ち良く入浴してもらうことができている。
		е	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極 めるとともに、入浴後の状態も確認している。	0	入浴前はパイタル測定を必ず行い体調を確認している。入浴後も体調に変化がないか気を付けて いる。				

	評価項目	小項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	0	夜間の状態を毎日記録し、引継ぎ確認している。就寝や起床は個人のリズムに合わせている。				
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来の リズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り 組みを行っている。	0	日中の活動量を増やしたり、午後も起きて過ごしていただけるようにしている。				事業所では、極力眠剤に頼らず、夜間に利用者が自然な睡眠が得られるよう支援している。 中には、夜間に眠りにくい利用者もおり、温かい飲み物を提供したり、職員と話して過ごしたり するなど、眠たくなる時間を見計らい、居室に誘導するなどの対応をしている。また、日中に
21	安眠や休息の支援	С	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内 容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を 行っている。	0	日中楽しく過ごせるように工夫し眠れない時は職員と話をして自然に入眠できるように気を付けている。睡眠の状態を医師に報告し適切な内服が出来るように支援している。			©	を力起きて過ごしてもらい、外気浴を取り入れたり、日中の活動量を増やしたりするなどの工 夫をしているが、不眠が続く場合には、利用者の健康面を考えて、主治医に相談し、服薬に 繋がることもある。
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組 んでいる。	0	本人の希望や体調によって居室で自由に休息できるようにしている。				
		а	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取り ができるように支援をしている。	0	ご利用者から希望があれば電話したり、手紙のやり取りも出来るように支援している。年賀状も出来るだけ職員と一緒に一言でもコメントを入れていただくようにしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、 促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	0	本人の希望に応じて代筆したり、日々の出来事を便箋に書いて、施設の手紙と一緒に同封したり LINEの活用、電話をかける等、支援をしている。				
22	電話や手紙の支援	С	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	0	ご利用者より、「電話してください」と頼まれた時は取り次いでいる。ご家族様よりお誕生日とかに 荷物や手紙が届いた時にはその都度、こちらから連絡するよう薦めている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫 している。	0	本人にお渡ししたり、個々のBOXに保管している。写真は居室の見える所に飾り、いつでも見れるようにしている				
			本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をして もらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いし ている。	0	個々のご家族様に協力して頂けている。本人が喜んでいたことは必ず伝えている。				
	お金の所持や使うことの支援	а	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを 理解している。	0	お金の大切さは知っている。お金を持っていないと落ち着かない方は少額持っていただいている。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買 い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	lkm以上離れたところにコンビニがあるだけで日用品の買い物は5km以上離れたところへ行かなければならないので、できていない。				
23		С	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的 に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの 希望やカに応じて、お金を所持したり使えるように支援してい る。	Δ	コロナ禍で外出することもほとんどなく、使うこともないが少額のお金を所持できるようにしている。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合って いる。	Δ	お金を持っている利用者はほとんどいない。預り金で職員が必要なものを買ってきている。				
		е	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や 家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家 族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	0	入所時、「預り金規程」について説明を行い、規程に基づき、日用品や医療費等、の支払いについては、預り金を使用し、毎月預り金の報告状況をご家族様に報告している。				
24	多様なニーズに応える取り組み	'	本人や家族の状況、その時々のニーズに対応して、既存の サービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に 取り組んでいる。	0	医療機関の受診の際には、ご家族様の都合が付かない時は管理者、ケアマネ、介護職員が受診に付き添うなど、その時々に応じて柔軟に対応できるよう努めている。	0		0	コロナ禍や感染対策が続き、外出や面会などの制限が設けられていたが、対策の緩和に伴い、可能な範囲で、柔軟な対応ができるようになってきている。家族には、病院の同行支援をお願いしているが、都合の悪い場合に職員が同行したり、日常の詳細な情報を伝える必要がある場合にも、職員が家族と一緒に受診に同行し、様子を伝えたりするなどの対応をしている。
(3)生	三活環境づくり	_							
25	気軽に入れる玄関まわり等のi	記慮	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出 入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。		屋外でマスクを着用し、2名まで15分程度で面会をしていただいている。コロナ禍から、地域の人の面会は出来ていない。	0	0	0	建物の入り口には、たこ焼きやトマトの旗が立てられているほか、敷地内には、野菜などの無人販売所が設置され、地域住民が気軽に立ち寄れるような雰囲気が感じられる。広い駐車場は開放的で、玄関前のスペースは広く、中庭に向かってベンチが置かれ、家族との面会や外気浴に利用されている。

評価項目	小項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
	а	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、家庭的な雰囲気を有しており、訓度や設備、物品や装飾 お家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子 供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない 殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えに なっていないか等。)	0		0	0	0	季節に応じて、玄関やリビングの飾り付けを変更し、利用者や来訪者に、季節が感じられる
居心地の良い共用空間づくり	b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除 も行き届いている。	0	毎日清掃を行い、換気を行い、臭いのない環境を心がけている。			0	「学助に応して、玄関ペクレングの動かけけで変更し、利用有ペイあり有に、学助が感じられる」 ように工夫をしている。訪問調査日には、利用者と一緒に作成したクリスマスの飾り付けが行 」われ、赤や緑のクリスマスカラーが華やかな雰囲気を醸し出していた。また、共用空間の掃
	С	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	Δ	花を飾ると自分の居室へ持って帰る人がいるため、飾れない。室内に掲示板などを設置し、季節 感あるものを掲示するよう心がけている。			0	除や換気に気を配り、加湿器を配置するなど、清潔で快適な空間となっている。さらに、事業 所前には、利用者が皮をむいた干し柿が吊されていた。
	d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	0	フロアでご利用者同士で話をしていたり1人で好きなことをしている方もいる。居室の出入りや横になることは自由に出来るようにしている。				
居心地良く過ごせる居室の配り	慮	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもの を活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る。	0	大切なもの、馴染みの使い慣れたものは持ってきてもらい、ご家族様の写真などは居室に飾り居 心地よくしている。	0		0	居室には、ベッドや洗面台、エアコン、クローゼットが設置されている。利用者は、自宅から馴染みの物を持ち込むことができ、家具や家族の写真を飾るなど、居心地良く過ごせるよう工夫をしている。中には、仏壇や位牌を持ち込んで毎日拝んだり、電気のひもを伸ばして、点灯や消灯したりしやすいようにしている利用者もいる。
一人ひとりの力が活かせる環 ほづくい		建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」 を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した 生活が送れるように配慮や工夫をしている。	0	居室のドアにそれぞれの名前と誕生月の花の写真を表示しわかりやすくしている。			0	建物内はパリアフリー構造で、動線上に手すりが設置されている。また、広いフロアの中央に 部分にテーブルが置かれ、車いすや歩行器を使用する利用者にも動きやすい環境となって いる。さらに、各居室の入り口の扉には、氏名と誕生月の花の写真を貼られ、利用者が認識 しやすく、間違わないように工夫をしている。各ユニットに3か所のトイレがあり、分かりやすく
<i>5.</i> 2 ()	b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手 に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほう き、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、 ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	Δ	掃除道具は見えないところにポットも台所でご利用者が触ることはできないが、雑誌はいつでも手に取れるように置いてある。				表示をしている。加えて、テーブル席のほとんどが、居室の前に設置され、利用者が安心安全に移動できるよう配慮されている。
鍵をかけないケアの取り組み	а	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害・鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらず心理的不安や閉塞感・あきらめ、気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	0		Δ	0	0	全ての職員は、玄関等に鍵をかけることの弊害を理解している。日中に玄関は施錠をしておらず、夜間のみ防犯のために施錠をしている。また、玄関スペースとフロアの間に扉はなく、利用者は自由に出入りや行き来できるようになっている。また、玄関に赤外線センサーを設置され、利用者や来訪者の出入りを職員は気づきやすくなっているが、時には、センサーの電源が抜けていることがあり、管理者は職員に注意喚起をしている。さらに、外に出たい利用
	b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	0	帰宅願望の強い人が勝手に出ていくこともあるが、見守り強化で鍵はかけていないご家族様にも 説明し、納得していただいている。	//			者には職員が付き添って屋外に出るなどの対応をしている。加えて、近隣住民に依頼し、利用者が一人で外を歩いている場合には、事業所に連絡をもらえる体制づくりをしている。コナ禍や感染対策が続いていたこともあり、家族に鍵をかけないケアの取り組みに対して、刊解促進が図られることも期待される。
康を維持するための支援								
	а	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等につい て把握している。	0	職員はご利用者1人1人の病歴や現病留意事項等について把握している。				
日々の健康状態や病状の把 握	b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサイン を早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを 記録に残している。	0	バイタル、排泄記録で身体状況を把握し、変化や異常は記録に残している。大きな異常はすぐに 管理者、ケアマネに報告するようにしている。	/			
	С	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気 軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につ なげる等の努力をしている。	0	かかりつけ医には夜間電話で相談して指示を仰ぐ時もある。情報提供と対処方法、記録を活用 し、適切な看護が受けれるようにしている。				
		利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族 が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	0	基本的にはかかりつけの医療機関で引き継ぎ、診察や処方を受けていただく。ご利用者、ご家族 様が希望する場合には協力医療機関の医師に相談し、受診又は往診していただいている。	0			
いかりつけ医等の受診支援	b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつ け医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられる ように支援している。	0	受診が必要な場合はご家族様に連絡、受診していただく。無理な場合は管理者やケアマネが付き 添い受診する。往診医にも、往診を依頼したりもする。				
	С	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や 共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意 を得られる話し合いを行っている。	0	受診や検査が必要と判断した場合、ご家族様に連絡して検討していただく。結果報告を受け、話し合いをして、情報を共有している。				
	書心地の良い共用空間づくり 書心地良く過ごせる居室の配 一人ひとりの力が活かせる環 逆をかけないケアの取り組み 藤を雑特するための支援	####################################	####################################	### ### ### ### ### ### ############	###	#	#	#

項目 No.	評価項目	小項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
	人退院時の医療機関との連	а	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人 に関する情報提供を行っている。	0	教急搬送の際はケアマネと管理者の付き添いで入院、医療連携シートを当日中か、翌日の午前 中に医療機関の相談員に届けている。介護保険証、アセスメントシートも添付している。				
32	隽、協働	b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	0	医療連携室の担当相談員に定期的に連絡取り、状態や退院の目途をお聞きしている。				
		а	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	0	管理者に伝え相談している。その意見を参考にし、協力医療機関に連絡し、指示を仰いでいる。				
33 7	言護職との連携、協働	b	看護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつで も気軽に相談できる体制がある。	0	管理者は24時間相談できる体制にあり、医療機関は昼間のみの対応となっていたが、コロナウイルス感染症が流行し始め、夜間も協力医療機関に連絡取れる体制を確保している。				
		С	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切に できるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療 につなげている。		毎朝、パイタルチェックをして健康管理している。異常があった場合、再度測定し管理者、ケアマネ に報告、相談している。また、必要に応じて、かかりつけ医、協力医療機関で受診出来るような体 制を取っている。		1/		
		а	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量 について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家 族や医師、看護職等に情報提している。	0	毎日の薬は個人カルテの処方箋の記録や個々の服薬管理表で管理している。医療機関で処方された薬に変更があればきちんと効能や副作用について説明を受け、申し送りをしている。身体に、 異常があれば、管理者・ケアマネからご家族様や医師に伝え情報提供している。				
34 月	最薬支援	b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援 し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	0	職員が管理を行い1人の目ではなく2人体制でチェックし飲み忘れや、誤薬を防いでいる。名前を 言っていただき確認している。				
		С	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘 や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。		服薬による副作用がないか、歩行は安定しているか、表情に変わりないか、排便の有無、食事量 のチェック等行っている。必要に応じて主治医に連絡している。		\mathcal{V}		
	重度化や終末期への支援	а	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または 状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その 意向を確認しながら方針を共有している。	0	入所時に、終末期について説明、話し合う機会を設けている。本人、ご家族様の意向を聞き、状態 に応じて変わることもあるが、今、現在の状態で対応するようにしている。				
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、 方針を共有している。	0	本人、ご家族様の意向を尋ね、職員、かかりつけ医の主治医・協力医療機関等関係者と話し合 い、支援の方針を定めている。	0		0	
35 🗓		С	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思い や力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極 めを行っている。	0	緊急時の対応について話し合い、職員の力量に応じて連携体制を整えている。 医療行為が必要となればグループホームでは看ることが難しいことも伝えている。 現在、終末期の入居者はいないが、管理者は職員の力量を把握している。				事業所として、看取り支援は実施していない。入居時に、管理者等は、利用者や家族に対応 できることなどを説明し、了承を得ている。事業所には看護師が配置され、日々の利用者の 健康管理をするほか、職員の相談に応じている。また、利用者が重度化した場合には、家族
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	Ō	本人への説明は出来ていないが入所時にご家族様には説明している。状況に応じて十分説明し 理解を得ている。				や主治医、関係者を交えて話し合い、方針を共有するとともに、職員に周知をしている。さらに、事業所で対応できなくなった場合には、他の施設や病院に転院をしている。
		е	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家 族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチーム で支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備 えて検討や準備を行っている。		本人やご家族様の希望を大切にし、主治医、医療機関と話し合い、職員間の意識の確認も行っている。先行について見通しを立て特養への入所の順番変更や入院等、検討するようにしている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	0	ご家族の気持ちに寄り添い、気持ちを汲みながら支援している。終末期が近い場合は、伝え心の 準備をお願いし入院先の希望等をお聞きしている。				
		а	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、 肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策 等について定期的に学んでいる。	0	流行する前、また流行期間中に、定期的に研修会を開き学んでいる。				
36 - 5	婆染症予防と対応	b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう 日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。		マニュアルを作成し、対応できるようにしている。コロナウイルス感染症の場合定期的に抗原検査 を行い毎日検温している。感染症の予防では手指消毒、テーブル、トイレ等の消毒を行っている。				
		С	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じ て感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の 最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	0	いろいろな機関、新聞、メディア等から情報を取り入れている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来 訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	0	職員、ご利用者は手洗い、うがい、手指消毒を行っていただいている。職員はマスク着用、ご利用者にも外出時(医療機関受診時等)にはマスク着用している。来訪者等には検温、手指消毒、マスク着用していただいている。				

社会福祉法人愛媛県社会福祉協議会

項目 No. 評価項目	小項目	Ą	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い				B1 100			1 21.1-	21.100	
	а		は員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を もにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	0	日頃より、ご利用者について相談し連絡を取っている。		$\overline{}$		
	b		R族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を ミっている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交 ₹)	Δ	5類に分類されても、コロナ禍の影響で、短時間での面会を設けており、家族会や運営推進会議 への参加以外は機会を設けることが出来ていない。行事の写真など撮ったりとご家族様と関係性 を保てるよう支援に努めている。	0		0	
	С	を者	限族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容 把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用 fの暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよ」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	0	日常生活報告書で毎月伝えている。行事の写真は計画への署名に来てくださった時にお渡しすることにより、暮らしぶりや様子を知ることが出来ている。また今年の家族会でご家族とLINE交換やメールを行い生活の様子、行事の様子等連絡出来るようになった。	0		©	コロナ禍や感染対策が続き、事業所の行事に、家族が参加できる機会がなかったが、コロナの5類移行に伴い、感染対策が緩和され、短時間の対面での面会が可能となり、利用者や家族に喜ばれている。また、対面での運営推進会議や家族会の開催を再開している。毎月、一人ひとりの利用者の日常生活報告書を家族に送付して、利用者の近況をあるとともに、今時人限の更な時代の選集などが高い、スの際に行事の更ながらに済まします。
37 本人をともに支え合う家族と	d	を	れまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係 築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人 の理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きか 大関係の再構築への支援等)	0	コロナ禍により電話対応が多くご家族様へは「これが認知症ですよ」と疑問にくわしく説明させていただいています。令和4年7月コロナに感染し、ご家族様にはご利用者の身体レベルの低下がみられ、認知の進行があった時は特に詳しく報告させていただき、良好な関係を築けるよう支援している。				介護保険の更新時に介護計画の署名を依頼し、その際に行事の写真などを渡すこともある。 さらに、令和5年に実施した家族会では、可能な家族に、SNSのLINEやメールアドレスの交 換を行い、連絡が窓に取り合えるようになっている。連営上の事柄や出来事などを運営推進 会議等の中で、報告することはできているが、職員の入退職や異動までの報告はできておら
の関係づくりと支援	е	ゃ	「業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解 協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導 、、職員の異動・退職等)	Δ	毎月、日常生活報告書(本人の参加した行事や健康状態)はお届けしているが設備改修は報告していない。職員の異動については報告出来ていないが、退職については運営推進会議の議事録の郵送での報告となっている。	×		Δ	ず、利用者家族等アンケート結果から、職員の入退職などの情報が十分に家族に伝わっていないことが窺えるため、家族会や運営推進会議を活用して、新入職員を周知したり、毎月の日常生活報告書に記載している担当職員の交代や退職を報告したり、ほとんど異動がない場合にはその旨を伝えるなど、周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。加え
	f		別用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明 、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合ってい。	0	制限のない生活がリスクを生じることを説明し、介護者が1人でケアが重なった時に待っていただく 事が出来なくて転倒するリスクについては抑圧出来ないし、起こり得ることを何度も説明している。				て、来訪時や電話連絡時を活用して、管理者は積極的に家族に声をかけ、気軽に意見や要望を伝えてもらったり、相談に応じたりするなどの良好な関係づくりに努めている。
	g	りを囲	R族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えた相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰観でのくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構その支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	Δ	面会制限の中、計画更新の時は必ず電話で気がかりなこと、意見、希望をお聞きしている。コロナ 摘の3年間は面会に規制をかけていたので署名や用事で来庵された時もゆっくりお話できていな かった。5類に分類され、移行後は面会は15分程度にしていただいており、面会が出来るようにな り、お互いに安心感が得られるようにしている。			0	
	а	い	2約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己 、担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	0	契約時にはわかりやすく説明し、「最後迄居られる施設ではありません。食事についての対応、1 番のリスクの転倒骨折についても理解が得られるように十分に説明しています。変更がある場合 にも何度も説明し納得を得られるようにしています。				
38 契約に関する説明と納得	b	U. Ki	見居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確に、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のい、退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	0	退去についても十分に話し合いを行い、納得のいくよう、契約書に基づいた形で、数日間の猶予を いただき、また再び施設へ帰って生活したい(出来る)方には3ヵ月はお部屋を確保しておく等、詳 しく説明し、帰れない方には退去先に移れるよう支援しています。		\mathcal{V}		
Ⅲ.地域との支え合い									
	а		地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事 所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	0	「自由に地域の中で」「新しい我が家」を理念に掲げ、地域の方と接する機会を大切にし、施設の目的や、役割をわかっていただくよう説明している。		0		
	b	暮深	『業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を 終める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・ お会への参加、地域の活動や行事への参加等)	Δ	5類に分類されても、コロナ禍の影響はあり地域の方々との交流はできていませんが、地域での活動(文化祭の作品出展依頼)についてはご利用者と職員が協力して作品を出展している。作品の掲示参加は職員のみとなっている。		×	0	
地域とのつきあいやネット ワークづくり ※文言の説明	С	利る	J用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えてい。。	Δ	5類に分類されても、コロナ禍の影響はありますが、近隣の農家の方が、電話にて連絡をいたき野菜や果物を持ってきてくださったり、玄関先に置いてくださる。				コロナが5類に移行されたが、令和5年の秋祭りの後にも再度の感染拡大があり、地域との
地域:事業所が所在する市町 の日常生活圏域、自治会エリア		地	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	Δ	婦人会の方、近所の農家のご夫婦等が寄ってくださっていたが、コロナ禍で野菜を持ってきて、「変わりないですか?」と声掛けし置いて帰ってくださる。				へ交流は自粛状態が続いている。地域から、文化祭への作品の出展依頼があり、利用者と一緒に制作した作品を出品することができたが、職員のみの参加に留まっている。また、事業、所周辺の散歩時には、近隣住民と挨拶を交わすことができている。さらに、開設から20年が
	е		禁近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらなど、日常的なおつきあいをしている。	Δ	外の掃除をしている時や、敷地内で散歩をしている時は、気軽に声をかけてくださる。				「別周辺の取り作には、地域住民と大学をよりフェントでといる。そのに、開設が12とサイン 経過した事業所は、地域住民から認知され、野菜の差し入れをもらうなどの交流は継続して いる。加えて、敷地内にあるカフェや無人販売所を、地域交流の場として開放をしている。
	f	実常	「隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充足を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日に)的な活動の支援、適出、行事等の支援)	0	コロナ禍の影響で立ち寄ることは出来ないが、婦人会の方が屋外の清掃に来てくださったり、馴染 みの美容師は感染症対策を十分に行い散髪してもらっている。				
	g	豊関コ	は域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全でかな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや 機を深める取り組みを行っている(公民館、商店、スーパー・ ンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・ 育施設等)。	Δ	5類に分類され、コロナ禍の中でまだ、周辺地域の諸施設とのかかわりは出来ていません。年2回 の避難訓練は、消防署の方も一緒に参加し、総合訓練を行うことができ、また、救急訓練も、来庵 していただくことが出来るようになりました。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加 がある。	0	令和5年度コロナ禍から5類に移行後は、公民館、区長、婦人会長、民生委員、介護相談員等案 内状を差し上げた方には参加していただけている。ご利用者とそのご家族はその時面会ができ、 ゆっくり話が出来るのでとても楽しみにしている。	0		0	運営推進会議は、利用者や家族、地区の区長、民生委員、公民館長、婦人会長、介護サー
40	運営推進会議を活かした取 組み	b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り 組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容 と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出され た意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表し ている。	0	2年前の報告はコロナ禍で書面でおこないました。皆様長年運営推進会議のメンバーをして下さっていたので十分理解して下さったと思います。今年は区長、婦人会長、民生委員等入れ替わりましたので、詳しく報告します。		0	0	ビス相談員、市担当者等の多くの参加を得て開催している。コロナ禍や感染対策が続き、会議は文書開催が続いているが、事前に利用者の様子やサービスの実施状況などを記載した資料を送付し、意見や感想を返信してもらっている。また、自己評価や外部評価のサービスの評価結果、目標達成計画等も、報告をしている。さらに、出された意見を報告するとともに、サービスの質の向上に反映することができている。加えて、議事録を全ての家族に送付
		С	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席 しやすい日程や時間帯について配慮・エ夫をしている。	0	会議の最後に次回月上旬等を伝えると「行事が多いため下旬のほうが良い」との返事を頂く等、希望に沿っている。		0		している。
₩.J	り良い支援を行うための運	営体的	bij						
41	理念の共有と実践	а	地域密蓋型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、 代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	Δ	「自由に地域の中で」「新しい我が家」を理念に掲げ、地域の方と接する機会を大切にしてきましたが、令和2年の春から新型コロナウイルス感染症の関係で三密を避けており、令和5年コロナ禍から5類に移行後も地域の方とは接することが出来ていない。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えて いる。	Δ	ご利用者、ご家族様には利用開始時に説明している。また、運営推進会議に新規で参加してくださ る方には伝えるようにしている。 地域の人は説明した機会のみとなっている。	0	Δ		
		а	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	0	年間研修の計画を立て、研修の案内、情報の回覧をし、参加できるよう勤務調整をしている。どう しても参加してほしい研修には管理者の方から参加を促している。コロナ禍の関係で研修は、動画 配信をが中心となっているが、研修発表は毎月行っている。				
	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営して いる法人の代表者であり、理 事長や代表取締役が該当す	b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習) を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取 り組んでいる。	0	内、外部研修に参加した職員が勉強会で発表(報告)し、知識を共有している。コロナ禍の関係でリモートでの研修を受ける機会を多くしスキルアップできるよう取り組んでいる。				
42	るが、法人の規模によって、 理事長や代表取締役をその 法人の地域密着型サービス 部門の代表者として扱うのは	С	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	0	人事者課を行い、個々の努力や勤務状況に応じて昇給している。勤務差作成時、個々の希望を関いて、働きやすく、又資格取得には全面協力し、取得の際には給与についても配慮し働きやすい 職場環境づくりに努めている。				日頃から、代表者を兼ねる管理者は現場に出て、職員に声をかけ、意見や提案を聞くことができている。また、法人・事業所として、年間の研修計画を作成し、動画配信の研修を活用して、職員のスキルアップを図ったり、資格取得のサポートをしたり、職員の処遇な善に努めるなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。さらに、職員は管理者に気軽に意見を伝
	合理的ではないと判断される 場合、当該部門の責任者な どを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書 に記載する代表者と異なるこ とはありうる。	d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の 意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都 道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	0	同業者との交流の機会は少ないが、研修への参加を促し、意識の向上に努めている。コロナ禍で はリモート及びオンラインの研修を多く受講できるようにしている。				えることができ、希望休や有給休暇も取得しやすく、働きやすい職場環境と感じている。
		е	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や 環境づくりに取り組んでいる。	0	職員(個々)が話しやすく、相談しやすい環境作りに努めている。	0	0	0	
		а	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学 び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行 為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがない よう注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても 理解している。	0	定期的に身体拘束適正化会議を行うにあたり「虐待の芽チェックリスト(入所施設版)」を使用したり、また身体拘束職員研修の内部研修でテーマを取り上げ学び理解している。			0	法人内研修や勉強会で学び、職員は虐待や不適切なケアの防止を理解している。また、不 適切な言動が行われないように、日頃から、管理者は職員に指導や注意喚起をしている。定 規的に、「不適切ケアチェックシート」を活用して、職員自らの振り返りを行うとともに、常に意
43	虐待防止の徹底	b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	0	毎月のカンファレンス時に日々のケアについて振り返りを行い、ケア内容について話し合ったり、 毎日の申し送り時、日々話し合う場を作っている。				がかけて、「か適切がアチェックシート」を占用して、戦員自らの振う返りを打りととむて、希に思識した対応ができるよう努めている。さらに、不適切な言動が見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、管理者に報告して話し合うなど、職員間での情報共有や再発防止に、努めている。
		С	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに 影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	0	職員の体調変化や様子など注意し、見守っている。気になる職員には声掛けし、話を聞いている。 希望休、有給休暇と休みを大切にし、リフレッシュできるようにしている。				
		а	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	0	身体拘束適正化会議を概ね3か月に1度行い、年4回、身体拘束研修会を概ね半年に1回、年2 回行い、やむを得ない場合を学び正しく理解している。身体拘束を行っていなければ、日誌に本日 身体拘束ありませんの記述もしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り 組み	b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	0	身体拘束研修会で「虐待の芽チェックシート(入所施設版)」を定期的に使用し、都度振り返り表に 記入し言葉の拘束しているかも?の反省や主任指導による不適切ケアや虐待防止の話し合いを している。				
		С	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について 説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫 の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図ってい る。	0	身体拘束をすることにより、ご利用者に及ぼす影響や弊害について説明をし、理解を得られるよう にしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活	а	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度に ついて学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解し たうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情 報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	0	入所してからは成年後見制度を利用したご利用者はいないが、毎年、研修に参加した職員が講師 となり、研修を行っている。息子が母の年金を使い込んで、ご利用者の世帯分離、息子の生活保 護、ご利用者へ市の成年後見制度利用等具体的に支援した。				
	m ·	b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援 センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書 士等)との連携体制を築いている。	0	ご利用者、ご家族様の現状から、どの制度を利用するか?支援センターに電話相談すると訪問して下さり話し合い、支援をおこなった。				
		а	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や 事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	0	緊急時の対応マニュアルは作成し、各ユニットに常設し周知している。急変時は本人の安全を確 認し管理者、ケアマネに連絡し指示を仰ぐ。どんな時も落ち着いて対応できるよう周知している。				
	急変や事故発生時の備え・	b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、 実践力を身に付けている。	0	コロナが5類移行後3年ぶりに消防署の心肺蘇生法講習を行い初期対応?実践力を身に着けるように努めている。 う後は年1回実施していく予定です。				
46	事故防止の取り組み	С	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一歩手 前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討する など再発防止に努めている。	0	ヒヤリハットを作成し、すぐに対策方法を話し合い、職員に回覧しサインする。月1回のカンファレン スでも報告。運営推進会議で2ヵ月に1回報告している。事故報告はその都度市役所へ提出して いる。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険につい て検討し、事故防止に取り組んでいる。	0	状態の変化へ気づきをユニット内で共有、転倒のリスクや危険が1番多いので移動時の見守り付き添いを徹底している。1に見守り2見守り、事故防止に取り組んでいる。				
		а	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜 対応方法について検討している。	0	マニュアルを制作し、周知を図っている。苦情については苦情窓口が対応するようにしている。				
47	苦情への迅速な対応と改善 の取り組み		利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	0	契約時に苦情窓口があることを重要事項で説明し、伝えている。原因や対策を検討し、苦情が出 た場合はマニュアルに沿って応じて行政にも報告するようにしている。				
			苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、 サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな 話し合いと関係づくりを行っている。	0	対策案を検討し、速やかに回答できるようにしている。 苦情に対しては管理者と職員で対策を検討 し、ご家族様と話し合いよりよい関係作りに努めている。				
		а	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっ ている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、 個別に訊く機会等)	0	計画の更新時には、要望や苦情をお聞きしている。ご利用者の言葉や表情、態度に注意して、気 づいたことは職員間で話し合い、改善している。	0		0	
48	運営に関する意見の反映	b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができ る公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	0	ご家族様が病院受診で来られた時や、電話で要望をお聞きし、計画に反映するようにしている。気 になることや、苦情や相談についてもお聞きするように対応している。				事業所には相談窓口が設けられ、入居時に、家族等に周知をしている。日々の生活の中で、 職員は利用者に声をかけ、意見や要望を聞いている。また、家族には、電話連絡時や来訪 時を活用して、管理者や職員は積極的に声をかけ、個別に意見や要望を聞くようにしてい
40	EEIに対する心元の人の		代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・ 提案等を直接聞く機会をつくっている。	0	代表者は管理者も兼ねているので、職員の意見や要望はいつでも聞いてくださる。又ユニットにも 入りご利用者を気にかけ声かけなどを行っている。	/	\angle		る。さらに、代表者を兼ねる管理者は、日々の申し送りやカンファレンスに参加して、職員から 意見や提案を聞くなど、利用者本位のサービス提供に繋げている。
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	0	管理者は朝の申し送りミーティングにも必ず出席し、職員の意見や提案を聞き、利用者本位の支援を考えどのように課題を解決していくかを職員と相談・検討を行っている。又トライアンドエラーの検討も協力的であり利用者の要望は管理者に報告相談をしている。			0	
		а	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解 し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	0	管理者、職員はサービス評価の意義から目的を理解し、外部評価が来られない年も全員で自己 評価に取り組んでいる。				
49	サービス評価の取り組み		評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	0	評価を受けて出来ていない所を話し合い目標達成計画を作成し、その達成に向けて取り組んでいる。				7毎年、全ての職員で自己評価に取り組み、管理者等を中心に取りまとめて作成をしていることもあり、職員はサービス評価の意義や目的を理解している。また、外部評価のサービスの評価結果と目標達成計画等は、運営推進会議の中で報告するとともに、職員間で目標達成に向けて取り組んでいる。目標達成の取り組みの状況も、会議の中で報告しているが、地域
,,,		С	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、連 営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモ ニターをしてもらっている。	Δ	ご家族様、運営推進会議のメンバー(行政を含む)に報告しているが、モニターはしてもらっていない。	0	Δ	0	の参加メンバーが交代したこともあり、十分な理解促進までには至っておらず、集合形式の 会議の中で、意義や目的を伝えていくことも期待される。さらに、感染対策の落ち着いた際 に、会議の参加メンバーに事業所の取り組みを丁寧に報告して意見をもらったり、目標達成 の取り組み状況のモニターしてもらったりするなどの取り組みが行われることも期待される。
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	0	運営推進会議や事業所内のカンファレンスで取り組みの成果を報告している。	/			

項目 評価項目	小項 目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
	а	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成 し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害 等)	0	令和5年4月よりBCPを作成しあらゆる場合に備え、マニュアルを作成し各ユニットに備えて周知している。				
	b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	0	火災に関しては、5類移行後、消防署職員が参加して日中夜間帯想定の避難訓練を行っている。 土砂災害は6月に実施後行政に報告している。地震災害は9月初旬、不意打ちで行っている。				
50 災害への備え	С	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品 類の点検等を定期的に行っている。	0	消火設備や避難経路の点検は契約業者が年2回点検している。非常食料・備品・物品類等については令和5年4月に作成した事業継続計画(BCP)に記録し、定期的に点検している。			l /	7年2回、昼夜や火災、土砂災害などを想定した避難訓練を実施している。事業所は、西条市 行政から土砂災害警戒区域内の要配慮者利用施設に指定され、避難確保計画のほか、地 震や風水害などの対応マニュアルを作成している。コロナ禍や感染対策が続き、地域任民と
		地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	Δ	コロナ禍で5類に分類され令和5年6月から消防署と一緒に総合訓練を行っている。近隣の協力 体制は確保している。他事業所は2km以上離れたところに社協のデイサービスしかないので連携 は出来ていません。	0	0	0	合同の避難訓練の実施はできていない状況が続いているが、地域住民との協力支援体制を 確保することができている。また、管理者は地域の防災訓練に参加協力をしている。
	е	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同 訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市 町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)		コロナ福で事業所独自での訓練しかできていないが、土砂災害危険個所に指定されているため、 災害時には地域の人との協力体制が取れるよう声がけしている。また、土砂災害以外の災害時に は近隣地域の方の避難個所として使用させてほしいと申し出が出ている。				
	а	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実護報告等)	Δ	5類に分類され、コロナ禍の中で地域の公民館活動は少しずつではありますが、職員のみの参加 ができだしました。 運営推進会も護開催することが出来るようになっております。				
	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を 行っている。	Δ	施設見学も中に入り15分程度で見ていただきながらの説明です。電話や来庵による介護相談を 管理者又はケアマネが行っている。		×	Δ	コロナ禍や感染対策が続き、積極的な啓発活動まではできていないが、事業所は地域住民 から認知され、入居希望などの相談が寄せられて場合には、快く対応をしている。以前は、
51 地域のケア拠点としての機能		地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。 (サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の 集まりの場等)	Δ	5類に分類され、コロナ禍の中での影響で、地域の方との行事への参加はできていません。地域 の人達が集う場として、敷地内のカフェや無人販売所は開放していています。			l /	・地域の小学校に出向いて、介護講座の講師を務めたり、中学生の職場体験の受け入れに協力したりすることもできていた。また、敷地内にあるカフェや無人販売所を、地域住民の交流の場として開放をしている。さらに、感染対策も緩和され、引き続き、市行政や地域包括支援したンターなどの関係機関と連携を図りながら、地域活動に協力していくことも期待される。
	d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	コロナ禍の関係で今年度は受け入れ依頼はありませんでした。				とファー・でとう人間をは対したというに関いません。
	е	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育 等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら 行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	コロナ禍の関係で外部との接触は控えているので、地域活動は行っていません。			0	